

# 戸定会会報

〈千葉大学大学院園芸学研究科・園芸学部〉

## CONTENTS

### 特集

地球温暖化と水稻の高温障害について … 2

### 特集

ご存じでしたか 我らが同窓生探訪⑤ … 4

### 新企画

支部総会で出会った素敵な卒業生 …… 5

千葉大学園芸学部の学生サークル紹介 …… 6

会長ご挨拶 …… 7

研究院長ご挨拶 …… 7

退職のご挨拶 …… 8

新任のご挨拶 …… 8

学科近況 …… 10

学科学年幹事紹介 …… 13

63年後のクラス会 …… 13

支部だより …… 14

令和7年度 戸定会役員 …… 18

令和7年度 戸定会理事会総会報告 …… 19

会計報告 …… 20

令和6年度 戸定学術振興事業報告 …… 21

令和6年度 卒業・修了生の就職先 …… 22

令和6年度 戸定会寄付者ご芳名 …… 24

石井弘先生を偲んで …… 25

平野和彌先生を偲んで …… 25

時田勉氏を偲んで …… 25

会員計報 …… 25

学生の声 …… 26

国際交流 …… 27

卒業生だより …… 28

文化功労者顕彰受章 …… 29

戸定祭実行委員長からのごあいさつ …… 29

キャリアアドバイザー就任について …… 29

ホームカミングデー …… 30

研究紹介 …… 31

園芸学部あれ！これ！（その10） …… 32

戸定会へのご寄付のお願い …… 32

戸定学術振興基金（千葉大学基金）へのご寄付のお願い …… 32

編集後記 …… 32

2025



# 特集 地球温暖化と水稻の高温

今年は米価の高騰が話題となっていますが、米の需給を左右する水稻の収量および品質について、地球温暖化の影響が注目されています。気候変動に関するこれまでの研究から、20世紀後半から地球全体の平均気温が上昇傾向にあることが知られています。昨年（2024年）は、日最高気温35℃以上の猛暑日の日数が全国各地で歴代最多を更新し、前年の2023年と並んで記録的な猛暑となりました。地球温暖化による気温上昇にともない、国内では近年、西南暖地を中心に水稻の登熟期の高温により白未熟粒や胴割粒が発生し、玄米品質の低下が問題となっています。また、将来的にはさらなる気温上昇によって、高温不稔の発生による収量の低下など、異常気象による様々な被害が懸念されます。本特集では、近年の水稻の高温障害の発生要因と対策に関する研究の取り組みと、異常気象による水稻の被害として台風にとまなう潮風害の発生例を紹介します。

## 水稻の高温障害の発生要因と対策

近年発生している水稻の高温障害の要因として、気候変動による気温上昇が挙げられます。水稻の栽培期間である夏季（6～8月）の気温に着目すると、日本の夏季の平均気温は20世紀の初め（1900年）から2024年にかけて1.7℃（100年あたり1.3℃）上昇しました。特に1990年代後半からの気温上昇が顕著で、各地で日最高気温35℃以上の猛暑日の日数が増加し、九州や四国など西南暖地で玄米の品質低下が顕著になった時期と一致しています。

高温年における各地の玄米の等級比率（図1）に着目すると、熊谷と多治見で当時の観測史上最高気温40.9℃を記録するなど夏季に広い範囲で異常高温に見舞われた2007年には、1等米比率が東海、近畿、中四国で50～60％程度、九州では30％を下回りました。さらに、夏季の気温の平年偏差が+1.8℃で観測史上最高となった2023年には、1等米比率が北陸で40％以下、東北、関東



図1 高温年における全国各地の玄米（うるち米）の等級比率（作物統計をもとに作成。各地域ブロックは作物統計のブロック区分。）

でも70％程度まで低下し、水稻の高温障害が全国的な問題となりました。

近年の高温障害の発生には他にも様々な要因が影響していますが、もうひとつ見落とせない要因が、稲作時期の変化によって従来よりも暑い時期に登熟を迎えていることです。例えば、九州における稲作時期は、登熟初期における台風遭遇の回避や、あるいは晩生から中生への品種の変化により、これまで徐々に早期化が進んできました（図2）。九州の平均的な田植えの時期（田植期）は、1950年代は6月末頃でしたが1990年代以降は6月中旬となり、2週間ほど早くなっています。他の地域も同様に田植期は早期化していて、関東では過去70年で1ヵ月ほど早くなっています。

田植期の早期化にともない、穂が出て登熟を開始する時期（出穂期）も早期化しています（図2）。九州での平均的な出穂期は、1950年代は9月前半でしたが現在は8月下旬で、2週間ほど早くなっています。北海道や関東、北陸でも同様に田植期が早期化しています。そのため、年間で最も気温が高くなる8月上旬に近い時期に水稻が登熟期を迎えていることが分かります。すなわち、地球温暖化による気温上昇に加えて、各地での水稻の田植期と出穂期が早期化したことで、夏季のより暑い時期に登熟を迎えていることが、水稻の高温障害を助長する要因となっています。

水稻の高温障害の予防対策として、各地で高温耐性品種の導入に加え、作期を遅らせることで登熟期の高温を回避する試みが行われています。全国のいくつかの地点で試算すると、出穂期が現在よりも10日遅くなることで登熟期の平均気温は約2℃低下すると考えられます。これにより、登熟期前半の平均気温が高温障害発生の目安とされる26℃を下回ることが期待されます。

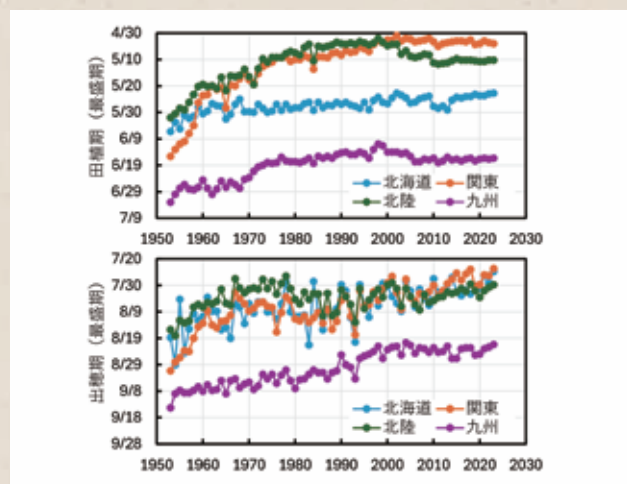


図2 近年における田植期と出穂期の最盛期の推移（作物統計をもとに作成。作型の類似した地域をまとめ、関東は茨城県・栃木県・千葉県、北陸は北陸4県、九州は福岡県・佐賀県・熊本県の平均値を算出。）

一方、栽培管理による対策としては、窒素不足による白未熟粒発生を防ぐための穂肥の調整や、刈り遅れによる胴割粒発生を防ぐための適期収穫などが挙げられます。また、用水が十分に確保できる地域では、登熟期もなるべく長く通水を続けることで、稲体を冷やす効果や登熟期後半まで光合成を維持できる効果が期待されます。私たちはこれまで、水管理による稲体の熱環境の改善によって玄米品質がどのように変化するのか、研究に取り組んできました（写真1）。その結果からは、気温が同じでも登熟期の平均水温が低いほど玄米の品質が高くなることが分かってきています。



写真1 水田の水管理による高温障害対策試験の様子

## 開花期の異常高温による不稔の発生

熱帯・亜熱帯地域では、稲の開花期の高温にともない受精が阻害される高温不稔が度々発生し、減収の大きな要因となっています。高温不稔の発生温度は品種や栽培条件によっても異なりますが、開花日の日最高気温が約36℃以上になると、正常に稔実する粳の割合（稔実率）が低下します。1～2℃の温度の違いによって稔実率が急激に変わるのが特徴で、今後の地球温暖化にともない国内でも被害が顕著になることが懸念されます。

そこで、私たちは温暖化による気温上昇を再現できる実験装置（温度勾配チャンバー）を用いて、水稻8品種



写真2 温暖化実験に用いた温度勾配チャンバー（熊本県合志市）

の稔実率の温度反応を調べました（写真2）。その結果、インディカはジャポニカより耐高温性が高く、その違いは穂の温度（穂温）の低さに起因していることや、穂温が同程度でも品種の受精能力の違いによって耐高温性が異なることがわかりました。また、開花期の高温により稔実率が低下した稲体は、遅れ穂の出現によって減収を補償している可能性があることも、新たにわかってきました。

## 台風にともなう潮風害の発生

日本の沿岸部の水田地帯では、台風にともなう海塩粒子の飛来（飛塩）により、水稻の潮風害が度々発生しています。地球温暖化にともない、日本付近では台風が将来強まることが予測されており、潮風害の増加や発生時期・地域の変化も懸念されます。台風常襲地帯である九州では、1991年、1999年、2004年、2006年の台風によって潮風害が発生しました。中でも2006年の台風13号は、水稻登熟期の9月17日に強い勢力を保ったまま長崎県佐世保市付近に上陸し、有明海の満潮時刻とも重なったことから、進路東側に位置する有明海沿岸部の広い範囲で飛塩による潮風害が発生し、甚大な被害を引き起こしました（写真3）。また、近年は千葉県においても、2018年台風24号および2019年台風15号による潮風害および高潮・高波による被害の発生が報告されており、異常気象による農業災害は無視できないものになっています。

台風にともなう潮風害など突発的な出来事による災害は、その発生が稀である一方で甚大な被害をもたらします。そのため、地球温暖化に対応して安定的な水稻生産を行うには、年々の高温障害対策と同時に、数年～数十年ごとに発生するような極端な現象のリスクも考慮する必要があります。気候変動に適応した農業のためには、このような極端現象への対応が今後重要になるのではないかと感じており、そのための研究を通じて技術開発が進展することを期待しています。



写真3 2006年台風13号により発生した水稻の潮風害（佐賀県佐賀市）

# ご存じでしたか 我らが同窓生探訪 ⑤

取材者：戸定会副会長 賀来 宏和（造園昭52）

今号の同窓生は、久保善博さん（農芸化学科昭和62年卒業、大学院前期平成元年修了）。我らが同窓生の中でも、際立って異色の存在です。刀剣の世界で数々の受賞をされた、現代では日本一とも言える刀匠で、本年秋からは全日本刀匠会の会長に就任されます。

**（質問1）** 刀匠にお会いするのは私の人生初の出来事です。しかも、同窓ということで、二重に驚いております。久保さんは奄美大島のご出身で、ご両親は特に刀剣や芸術に関係する方ではないとお聞きしていますが、そもそも刀匠の道を歩むようになったきっかけは何でしょう。

**（久保氏）** 学生の頃、毎週金曜夜放送の「極める」というテレビ番組を見ていました。ある時、当時の人間国宝・隅谷正峯刀匠が、「自らの人生を懸けたが、鎌倉時代の名刀は再現できなかった」と話しているの聞き、刀鍛冶になりたいと思いました。この科学万能の時代に、700年前にできたことができないというのが不思議に思え、そのようなことに人生を懸けている人がいるということに感動したからです。

まずは刀について調べようと思い、根津美術館で開催されていた名刀展で講習会に参加しました。そこで、研ぎ師の藤代興里（おきさと）氏から、吉原義人師匠を紹介してもらい、入門しました。

**（質問2）** 大学院修了の年ですね。刀匠という肩書はどのようにして得られるものですか。また、現在、日本には何人くらいの刀匠がおられるのでしょうか。

**（久保氏）** 文化庁の研修会に参加し修了しないと刀鍛冶にはなれません。8日間で脇差一振りを作る研修で、ほぼ実技試験の役割を果たしています。修業は5年以上と決められており、最短で5年、7～8年が普通で10年ぐらいい修業する人もいます。現在、作刀資格を持っているのは全国で200人以上ですが、全日本刀匠会に所属しているのは170人ほど。作刀だけで生計を立てているのは50人以下だと思います。

**（質問3）** 修業を終え、平成6年に文化庁から作刀承認を受けると、独立されて島根県仁多郡横田町に移住されますが、島根に移られた理由は何ですか。翌7年には「日刀保（日本美術刀剣保存協会）たたら」村下（むらげ）養成員となっていますが。

**（久保氏）** 名刀を作るには素材について学ばなくてはならないと考え、国内で唯一、伝統的なたたら製鉄をしている島根県に移住したのです。たたら製鉄の技師長を村下（むらげ）と呼び、その下で働く作業員を村下養成員と呼びます。村下は、送風量を調整し、砂鉄を炉に装入するという、最も大事な役割を担っています。炭の装入や、炉を作る仕事もあります。仕事場を借り、島根県には7年間居ましたが、その後、妻の実家のある広島県庄原市西城町に、日本刀鍛錬道場として、自分の仕事場を建てました。

**（質問4）** 素人の質問で恐縮ですが、刀はどのように作られるのですか。また、たたら製鉄と作刀との関係性はどのようなものなのでしょう。

**（久保氏）** 通常、刀鍛冶は、「日刀保たたら」で作る玉鋼（たまはがね）を購入して刀を作ります。砂鉄から刀まで一貫して作るのは、ほんの一部の刀鍛冶だけです。砂鉄を採取して「たたら」で鋼を作るのは高度な技術が必要ですし、労力を要するので、効率としては割に合いません。また、刀鍛冶は刀身を荒研ぎするところまでで、研ぎ師、ハバキ師（金具）、鞘師と分業制です。古い鉄を集めて溶かした鋼により作刀する人もいますが、古い鉄も元はたたら製鉄で作られたものです。私自身は「日刀保たたら」の玉鋼では作り出せない名刀を目指して、鋼作りから一貫して取り組んでいます。

**（質問5）** 久保さんは、日本刀の美しさの一つとされる「映り」という要素の再現に成功されたと聞いています。

**（久保氏）** 「映り」は平安時代から鎌倉時代の備前の刀に多く見られます。その後は徐々に少なくなり、幕末以降は「映り」を出す技術は途絶えていました。実験を繰り返して、平成18年に初めて成功し、新作名刀展で平成18年に第二席の文化庁長官賞、平成19年に日本一になりました。すべて「映り」の研究成果です。「映り」にも数種類あることが判っており、今も研究中です。

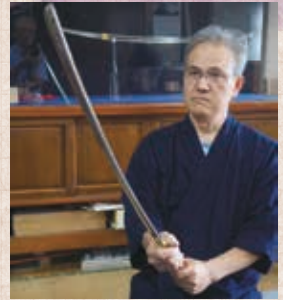
**（質問6）** 刀匠の傍ら、たたら製鉄の研究もなされていますね。

**（久保氏）** たたら製鉄法自体が謎だらけであることを知り、研究を始めました。小型炉を自作し簡単な実験をしたところ、明快なデータが得られたので論文にして発表しました。園芸学部卒ですから金属学は学んでいないのですが、金属の専門誌に論文が受理されたことで、卒業以来眠っていた研究心が目覚めてしまいました。細かく条件設定をして研究を進めれば、たたら製鉄の全ての謎が解けると確信しました。自分の手で、たたら製鉄の謎をすべて解きたいという研究者としての欲も湧いてきました。

**（質問7）** たたら製鉄に関する研究に関して、千葉大学での研究生生活は役立っていますか。

**（久保氏）** 学生時代は農産製造学研究室の中川弘毅先生の下で硝酸還元酵素（NR）の研究をしていました。大学院の2年で書いた論文がアメリカの生化学雑誌JBCに掲載され、中川先生には博士課程への進学を強く勧められましたが、都会のサラリーマン生活は向いていないのは分かっていたので、もっと自分にしかできない仕事はないかと悩んでいました。その時に、番組に出会ったのです。学生時代に自分の研究能力に自信を持てたことが、刀鍛冶としてもやっていけるという自信につながっています。今年、「たたら製鉄の鉄生成に及ぼす砂鉄中TiO<sub>2</sub>濃度の影響」という論文で日本鉄鋼協会から「依論文賞」を受賞しましたが、私が研究をしていなかったら、たたら製鉄の最も重要な謎は解明されていなかったと思います。今では、たたら製鉄の謎を解くために自分は刀鍛冶になったのだと思っています。

**（質問8）** これから社会に出ていく後輩たちに向けて一言お願いします。  
**（久保氏）** 刀鍛冶になりたいと言いついた時に、「こんなバカな子なら産まなければよかった!」と母親には泣かれ、勘当されました。サラリーマンになっていれば生活も安定し、お金には苦労しなかったと思いますが、刀鍛冶になったことを後悔したことは一度もありません。もし本当にやりたいことが見つかったら、自分の能力をしっかりと見極めた上で、思い切って進路変更するのもありだと思います。



久保善博刀匠と作品の一振



作刀中の若き日の久保善博刀匠

支部総会に本部の役員が参加させていただき楽しく懇談した時に、ぜひ戸定会員に知ってもらいたい「皆んなが元気になる素敵な卒業生」に経験や人生観などを寄稿していただくことにしました。今年、三森様と中原様にお願いしました。(齋藤京子)

## 人生に引退なし

山形県支部 三 森 和 裕 (環緑昭53)

何年ぶりかで戸定会山形支部の集まりに出席しました。懐かしい顔だけでなく、後輩たちの活躍などにも驚かされましたが、楽しいひとときを過ごさせていただきました。遠路、齋藤会長もご出席され、それが縁でこうして原稿を書くことになったのですから不思議なことです。

高度成長の中、顕著な環境被害が全国的に広がる中、環境緑地学科が新設されました。1期生として入学してから50年が経過しました。

県内の公園設計や植物調査など「みどり」に関することに多く関わり、学科の専門を生かした仕事を継続することができました。大学では目的をもたないふらふら学生でしたので、すぐに専門を生かせませんでした。たまたま職場には造園学科卒の先輩がおり、手ほどきを受け、なんとか重責を担うことができました。

一番苦労したのは、仕事遂行のスタッフのチームワークです。全体をまとめていく作業にはチームの結束が一番必要でした。また樹木は土地によって生育条件が異なります。そのため、県内をよく知る私たちでないとできない仕事も多くありました。これらの仕事の延長線上に技術士としての活動が広がりました。

緑化大運動で植栽した街路樹なども、視界が悪い・落ち葉が邪魔・また倒木の危険があるなどの理由から伐採されることが多くなりました。現在は、樹木医としての樹木保全に従事、森林インストラクターとしては環境学習活動を通して子供たちとともに森の不思議さを感じてもらっています。

医者通いが多くなってきました。私はライフワークとして少年期から、書道が続けてきました。書道の仲間は高齢化の中でもはりきって作品づくりに没頭しています。また、里山歩きの爽快感。歩けるという健康の喜びに毎日感謝しています。

社会活動としては、保護司を30年近く拝命しています。そして人生は思わぬことが舞い降りるのです。70歳過ぎて、僧職につきました。予想もしない思いもよらぬ出来事ではありました。世の中には困難に出合っている方は多いです。それらの事例をあわせながら、課題を一緒になって考えていくのが、これからの私の役割かもしれません。

大学の学びが私の生活のベースとなり、「みどり」を中心に地球環境保全の一端を担い、ついには人間とは何かという課題に向かって活動を拡げることになりました。こんな勝手気ままな人生を支えてくれる伴侶には感謝しかありません。



## 私は、社会に貢献することを人生の理念として歩んでいます

広島県支部 中 原 恭 恵 (緑・環平21)

千葉大学園芸学部緑地・環境学科では、庭園デザイン学研究室に所属し、ランドスケープデザインを学びました。大学院では、章俊華先生の支えで中国の清華大学建築学院へ留学する機会にも恵まれ、多様な価値観に触れることで視野を広げられました。現在は、地元広島県東広島市に戻り、父が経営する東光造園株式会社で、会社の経営及び地域の緑地管理や造園の仕事に携わり、一方では、競輪選手として走る二刀流生活を送っています。



学生時代はトライアスロンに熱中し、2020年東京オリンピックの開催が決まったときには、自転車ロード競技に転向して日本代表入りを目指しました。しかし、選考会直前に不慮の交通事故で大怪我を負い、夢は無念にも途絶えました。その後も諦めきれず、トライアスロンの視覚障害選手の伴走者として東京パラリンピックに挑みましたが、あと一步のところで出場は叶いませんでした。

夢を追いつける中で何度も壁にぶつかり、思い描いた形での結果を残せなかった悔しさは今でも忘れられません。しかし、挑戦する姿を見て応援してくれる人の存在の大きさや、「失敗しても挑む姿こそ誰かの力になる」ということを強く学びました。

これまでの経験が無駄にせず、最後の挑戦と位置付けたのが競輪選手になることでした。まだ走れる脚がある限り、プロ選手として稼ぎ、応援してくれた人々に恩返しをしたい。競輪は夢を諦めない私にとって、社会貢献を実現できる場でもあります。競輪では勝てばたくさん稼げます。将来は競輪で稼いだ賞金を寄付し、必要とされる場所へ届けていきたいと考えています。ただ寄付するだけではなく、その先に何を生み出せるかを模索しながら進んでいきたいと考えています。

これからも「走る社長」として、競輪も造園も全力で取り組み、自分自身が楽しむ姿を通して周りに勇気と喜びを与えられる人でありたいと思います。

人生は一度きり、片道切符です。人生は設計出来ず。やらずに後悔するよりも、失敗してでも挑戦する方が必ず自分の力になります。壁にぶつかることは成長の証です。願望に対するこだわりこそが、成功の原点です。戦う前に勝つシナリオを描いてください。皆さんも、大きな夢を描き、目標に対して行動というハンドルを切って、失敗を恐れずに挑戦し続けてください。それぞれが胸を張って、自分だけのストーリーを創っていきましょう!

# 千葉大学園芸学部の学生サークル紹介

質問：①サークル名 ②代表者名 ③会員総数 ④創立年月日 ⑤活動内容

## ①フットサルサークルばりうまっ！！

- ②松井 皇（院前2年）③33名（男子のみ）  
④2024年4月  
⑤週2回フットサルを行う、松戸で唯一のサッカー系サークルです。初心者から経験者まで在籍し、大会での活躍を目指して練習に励んでいます。ユニフォーム等にご協賛いただけるスポンサーも募集しています！



## ①こんぶ ②北澤 巧也（緑環3年）

- ③40名（男子21 女子19）④2015年  
⑤週2回3～4時間バドミントンをやっています！エンジョイしたい人や上手になりたい人、気が向いた時にふらっと参加したい人から毎週末でどんどん打ちたい人まで、誰もが楽しめるサークルを目指しています！



## ①植物同好会 松戸支部

- ②河上 翔哉（緑環2年）  
③11名（男子7 女子4）  
④昭和35年12月22日  
⑤私たち植物同好会は植物を通じて親交を深めることを目的に、西千葉・松戸キャンパスでゆるく活動しています。松戸支部はキャンパス内の畑で野菜を栽培しています。また、夏は自然保護指導員として活動しています。



## ①松戸院生交流サークル ②和島 大士（院前2年）

- ③3名（男子2 女子1）④2024年4月23日  
⑤園芸学研究科の院生が研究室を越えて気軽につながることを目的に、月1回程度の交流会を企画しています。研究の息抜きも兼ねて、参加者同士で話し合いながら内容を決め、自由な雰囲気大切に活動しています。



## ①千葉大学セパタクロー部松戸支部

- ②山本 夏生（園芸3年）③3名（男子1 女子2）  
④2009年頃（コロナ禍で一時活動休止）  
⑤私たちは千葉大学セパタクロー部に所属する園芸学部生の団体です！セパタクローは東南アジア発祥の球技で「空中の格闘技」とも言われるスポーツです。月に1～2回金曜日に活動しています！



## ①千葉大学援農お宝発掘隊

- ②清水 悠有（緑環3年）  
③25名（男子15 女子10）  
④2015年ごろ  
⑤（1）農家さんへの援農活動  
農家さんのもとで援農活動をしています。写真では梅の収穫をしています！収穫した梅は梅干しなどにしました。  
（2）大学の圃場での活動  
トマト・サツマイモなどを栽培しています。農家さんから苗をいただいて栽培しています。



## ①園芸バレーボール部

- ②小澤 圭一朗（緑環3年）  
③58名（男子38 女子20）  
④平成元年  
⑤園芸バレーボール部は毎週月、水曜日の16時～20時に活動しています。経験者と初心者の割合は約1：3ですが、初心者、経験者問わず楽しく活動しています。秋に開催する学年対抗試合は、毎年白熱します。



## 戸定会会長 挨拶

戸定会会長 齋 藤 京 子

戸定会会員の皆様、会長2年目の齋藤京子です。日頃より戸定会の活動に温かいご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

近年の地球温暖化は、私たちの専門分野である「食と緑」に大きな変革を求めています。今年の会報ではこの問題を特集いたしました。今、様々な経済社会国際問題が噴出する中で、園芸学部 of 学生たちは勉学や研究、課外活動に励み、未来へ向かって邁進しています。その姿は誠に頼もしい限りです。

さて私は、昨年の6月の総会で戸定会のTにかけて、「**3つのT**」に向け取り組むと話しました。1つ目は、学生からT：**頼り**になる「戸定会」、2つ目は、会員同士がT：**楽しく**繋がる「戸定会」、3つ目は、千葉大学園芸学部の発展にT：**携わり**応援できる「戸定会」です。

その後の「3つのT」の進捗をご報告します。

### 1. 学生支援の拡充

本年4月より、戸定会寄付講義「同窓生から学ぶキャリアデザイン」を開講しました。様々な分野で活躍する卒業生12名が後輩のためにキャリア観を語り、学生が自らの将来を深く考える貴重な機会となっています。

この寄付講義を立ち上げる事ができましたのは、百原戸定会名誉会長他、先生方のご尽力のおかげで感謝申し上げます。また、全国の支部にご協力いただき「就職相談窓口」を開設し、キャリアサポート室と連携した心強い支援体制が整いました。

### 〈後輩たちの研究活動支援にご協力のお願〉

一方で、学生の研究活動を支えてきた「戸定学術振興基金」が、今、減少により存続の危機にあります。未来を担う後輩たちのため、千葉大学基金を通じた本基金への温かいご寄付を、何卒よろしく願い申し上げます。

### 2. 会員同士の繋がりを深める

会員の皆様の活動を後押しするため、本年度から「支部活動活性化支援金」（2万円）をスタートさせました。各地の支部総会も盛況で、世代を超えて語り合う時間は、戸定会の絆を再確認できる貴重なひとときです。会報では「同窓生探訪」に加え、「支部総会で出会った素敵な卒業生」コーナーを新企画で立ち上げました。

### 3. 母校の未来へ向けて

4年後の2029年、千葉大学園芸学部は創立120周年を迎えます。この記念すべき節目に戸定会として何をすべきか、ぜひ会員の皆様と共に考え、準備を進めて参りたいと存じます。皆様からの積極的なご意見もお待ちしております。

これからも戸定会が皆様にとって誇れる同窓会であるよう努めて参ります。引き続きのご理解とご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

## 千葉大学園芸学部・大学院園芸学研究院の近況

園芸学研究院長 百 原 新

戸定会の皆様には、日頃より園芸学部および大学院園芸学研究院・研究科の教育・研究活動に多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。昨年4月に戸定会名誉会長を拝命して以来、栃木県・福岡県・新潟県の各支部総会に参加させていただきました。各地で活躍されている卒業生の皆様と直接お会いし、それぞれの地域や専門分野に根ざして、在学中に培われた知識と経験を生かして社会に貢献されている姿に、改めて深い感銘を受けました。今後も、在学生と卒業生をつなぐ架け橋として、微力ながら努めてまいりたいと存じます。

学内では、教育・研究活動において新たな展開が進んでおります。2023年に設立された園芸学研究院附属宇宙園芸研究センターでは、月面や宇宙ステーションでの植物栽培を目指した研究に向けて、現在、実験設備の整備を進めています。昨年末には、国際宇宙ステーションで育成された植物サンプルがスペースXにより帰還し、NASAを経由して松戸キャンパスに届けられました。今年3月には、NASAなど海外の研究者も参加する国際ワークショップを開催し、国際的な連携も本格化しています。また、今年6月には柏キャンパスに「BIH (Biohealth open Innovation Hub)」という産学官連携による研究・イノベーション拠点が開設され、本研究院からも関連研究が展開される予定です。こうした取り組みを通じて、園芸学研究の可能性をさらに広げていければと考えております。

学生活動もますます活発になっています。昨年から戸定祭は西千葉キャンパスの大学祭より1週間早く開催されるようになり、両キャンパスの学生が相互に参加できる体制が整いました。西千葉からも多くのグループが参加し、これまで以上に賑わいを見せています。実行委員会は、クラウドファンディングや卒業生名簿を活用した寄付の呼びかけなど、積極的な資金調達を行い、その結果、例年のキャンパス建物横のステージに加えて、イギリス庭園にも新たなステージが設けられ、大人数による「よさこい」など迫力ある演目が披露されました。多くの卒業生の皆様よりご寄付を賜り、誠にありがとうございました。

今年の戸定祭は10月25・26日に「羽化」をテーマに開催予定です。現在、松戸市との広報・イベント連携も進めており、地域とのつながりを一層深めていきたいと考えております。ぜひご来場いただき、引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 退職のご挨拶

園芸学科 教授 松岡 延 浩

本年3月に定年退職いたしました。1989年4月着任以来36年間教員生活を送らせていただきました。2020年4月から2024年3月まで園芸学研究院院長をさせていただきましたが、その間、COVID19によるキャンパスの閉鎖、教教分離、中止になった学部改組、国際環境園芸学専攻の設置、宇宙園芸研究センターの設置といった組織改革を行うにあたり、教職員、学生、戸定会の皆さまに多大なご協力をいただいたことに心から感謝致します。



私の好きな言葉は、「牛に引かれて善光寺参り」です。今風にいえば、セレンディピティというのかも知れません。私は小学生の頃からツツジの栽培が好きでした。当時園芸関係の雑誌に園芸学科の先生方が多数執筆されていたため、1979年4月に迷わず園芸学科に進学しました。当初、花卉園芸学か育種学の研究室を希望していたのですが、羽生壽郎先生の農業気象学を受講して、園芸に関わる諸問題を物理学・工学の立場から理解し、解決していく学問分野に強く心を引かれました。それ以後、物理学・工学の知見を用いて、不適切な環境を克服するというのは、私の一貫した研究テーマとなりました。園芸学部卒業後、北海道大学大学院農業工学専攻へ進学しました。卒業論文はダイズの凍霜害の生理に関する研究でしたが、修士論文・博士論文は盆地の放射冷却に関する研究でした。当時北大の研究室が微気象学のプロジェクトを分担するにあたり、霜つながりでは私にその研究テーマが回ってきたのだと思います。園芸学から農業工学へ移ったことで、視点もミクロからマクロに変わり、最終的には両方の視点を身につけられました。1989年4月に園芸学科農業気象学研究室に助手として着任しました。学部時代にお世話になった中山敬一先生、今久先生がおられ、教員としての様々なことを教えていただきました。改組に伴って、緑地・環境学科に移りましたが、そこでは、園芸学科の教員とは考え方のベクトルが170°位違った考え方の教員と意見交換することができました。また、偶然に居酒屋で隣り合わせになった鳥取大学乾燥地研究センターの教員から乾燥地研究に誘われ、中国やエジプトの乾燥地研究を手がけるようになりました。研究院長として戸定会に関わるようになってからは、加藤一郎相談役からサツマイモ栽培という新しいテーマをいただきました。このように、全くの偶然から、思いもかけない新しい分野に出会うことを多々経験しました。今後も多くの人とコミュニケーションを取りながら、善光寺参りを続けていきたいと思えます。最後になりますが、園芸学部の発展と戸定会の皆様のご健勝をお祈りし、感謝の言葉とさせていただきます。

## 新任のご挨拶

園芸学科 准教授 浦口 晋 平

2025年4月より、園芸環境科学講座の准教授として着任いたしました浦口晋平と申します。研究分野としては、植物栄養学を担当いたします。千葉大学園芸学部の一員として、自身の専門分野である植物栄養学の教育研究に携わる機会を賜りましたこと、大変光栄に存じますとともに、その重責に身が引き締まる思いであります。



私は東京農工大学で学生時代を過ごし、2007年に同大学院にて博士（農学）の学位を取得いたしました。その後、農業環境技術研究所（現・農研機構）、東京大学農学部の植物栄養・肥料学研究室、ドイツのバイロイト大学にて博士研究員として、植物の有害元素や栄養元素の輸送のメカニズム解析やカドミウムなど有害元素を蓄積しにくい植物の開発に従事しました。2015年度より北里大学薬学部公衆衛生学教室にて専任講師として、健康と環境に対する有害元素のリスク低減を目指し、植物の有害元素ストレス応答や環境浄化に関する研究を展開してまいりました。

植物栄養学は、植物が土壌や養液から栄養素をどのように吸収・利用し、生長するのか、その基礎的な理解の上に植物生産の最適化を目指すことを第一の目標とする学問分野です。さらに現在、食料安全保障の確保、地球温暖化対策や持続可能な農業の実現へ向けた解決策が求められるなかで、植物栄養学が貢献できることはいくつもあります。例えば、食料安全保障の定義の中には、食の安全性や品質も含まれます。健康リスクとなるカドミウムやヒ素などの有害元素を蓄積しにくい植物生産に向けた研究は、植物栄養学がカバーするテーマの代表例です。環境負荷を抑えつつ収量や品質を確保できるような植物系統の開発や施肥・栽培方法の模索も、大事なテーマとなります。昨今の夏季の高温やCO<sub>2</sub>濃度の高い環境が、植物の栄養や品質にどのような影響を与えるのかにも注目しています。

研究面ではこのような視点から、これまで私が培ってきた経験や研究者のつながりを活かし、本学での研究教育活動に尽力する所存です。教育面では、学生の皆さんが植物栄養学や周辺分野を学び、研究する経験を通して、社会のそれぞれの分野で活動していくための礎を築く手助けをしていきたいと考えております。

新参者ではございますが、戸定会の皆様におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 新任のご挨拶

園芸学科 教授 菅 野 明

2025年4月1日付で着任いたしました、菅野 明（かんの あきら）と申します。着任以前は、東北大学大学院生命科学研究科において、研究および教育に携わっておりました。

これまで私は、アスパラガスの雌雄性に関わる分子機構の解明や、アスパラガス野生種を用いた新品種の育成、さらにユリやチューリップといった単子葉植物における花器官形成機構の研究に取り組んでまいりました。専門分野を一言で申し上げるならば、「植物分子生物学・遺伝育種学」ですが、実際の研究活動は、アスパラガス野生種の分布調査や現地採集に始まり、それらの栽培・形態観察、さらには種間交雑による新品種の育成にまで及びます。実験室内だけでなく、温室での栽培作業など多岐にわたる活動を行っております。野生種には栽培マニュアルが存在しないため、その育成は常に試行錯誤の連続です。特に栽培種と野生種の交雑個体では、水や肥料の適量すら分からず、まさに植物の“顔色”を見ながらの栽培となります。それでも、誰も育てたことのない植物を育てる喜びが勝り、今日まで研究を続けていくことができました。

千葉大学では、アスパラガスの雌雄性分化機構の解明といった基礎研究に加え、野生種を用いて育成した新品種の収量向上を目指した栽培技術の開発など、応用的な研究にも力を注いでいきたいと考えております。また、これまでの経験を活かし、学際的かつ実践的な教育・研究活動を推進してまいります。あわせて、地域社会や農業現場との連携を深め、社会に還元できる成果を生み出すべく努力していく所存です。

私は学部では理学部生物学科に、大学院では農学研究科に所属しており、理学的視点と農学的視点の双方を持って研究に取り組んでまいりました。今後は、園芸学部・園芸学研究科の学生の皆さんに対して講義等を通じ、広い視野で物事を捉えることの大切さを伝えていきたいと考えております。さらに、学生一人ひとりの関心や個性に寄り添いながら、研究の面白さや学ぶ楽しさを実感してもらえるような教育を心がけてまいります。

最後になりますが、戸定会の皆様には、長年にわたり本学の教育・研究をご支援いただいておりますことに、心より感謝申し上げます。今後ともさまざまな場面でご助言・ご協力を賜ることもあるかと存じますが、引き続きご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



## 新任のご挨拶

園芸学研究院附属宇宙園芸研究センター 植物生命科学講座  
特任教授 日出間 純

2024年10月1日より国際高等研究基幹/大学院園芸学研究院附属宇宙園芸研究センター（松戸キャンパス）に着任しました、日出間純と申します。植物生命科学講座に所属します。着任前は、東北大学大学院生命科学研究科で教育研究に従事しておりました。

専門は宇宙植物学、植物生理学、光・放射線生物学で、これまで太陽光紫外線や放射線、重力、温度等の様々な環境変化や環境ストレスに対する植物の分子・細胞・個体レベルでの応答、そして抵抗性機構に関する研究を、イネ、シロイヌナズナ、コケなどを主な研究材料に、地上の実験室、そして国際宇宙ステーション実験施設を利用して研究を行ってきました。

宇宙園芸研究センターは、人類が宇宙で長期間生活するための物質循環型の食料生産システムの研究開発、地球社会のQOL・持続性の向上、そのための人材育成を目的に、2023年1月に大学院園芸学研究院に設置されました。当センターは、宇宙園芸育種研究部門、高効率生産技術研究部門、ゼロエミッション技術研究部門の3つの部門で構成されておりますが、私は宇宙園芸育種研究部門に所属しております。宇宙園芸育種研究部門は、宇宙などの特殊環境で生育し、安定した食料生産に資する品種の開発に関連する研究を行っています。具体的には、宇宙空間に特徴的な低圧・低重力といった特殊環境を人工的に再現する装置（低圧チャンバー、3DRクリノスタット）等を利用して、宇宙特殊環境に対する植物の応答メカニズムや、そのプロセスに関わる個々の遺伝子機能やゲノム動態などを明らかにすることで、宇宙環境における生育・生産に適した品種の開発を目指しています。

教育面では、今年10月より園芸学部の栽培・育種学プログラムを選択した3年生を宇宙園芸学研究グループとして受け入れ、直接教育研究を実施することになりました。今後は、研究活動は勿論のこと、大学院生、学部学生を対象に、これまでの教育研究経験・実績を基に、研究を通して宇宙環境のみならず、地球上の実社会に貢献できる次世代の社会人、そして今日世界規模で要求される「安心・安全な新しい社会の構築」に貢献できるグローバルな世界水準のリーダーの育成に努めていきたいと考えます。

戸定会員の皆様には、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



## 新任のご挨拶

食料資源経済学科 助教 棕 田 瑛梨佳

2025年1月より食料資源経済学科の助教として着任いたしました棕田瑛梨佳と申します。所属講座はランドスケープ・経済学講座となります。私は園芸学研究科の修了生で在学時には食料資源経済学科の櫻井清一教授にご指導を賜り、2023年3月に学位を取得しました。その後、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）中日本農業研究センターで任期付研究員として研究に従事しておりました。学び親しんだ松戸キャンパスに研究拠点を移すことができ、嬉しい気持ちでいっぱいです。

専門は農業経済学です。主な研究内容は台湾の直売型農業と有機栽培経営の経営評価に関する研究です。台湾への長期留学を契機とし、ファーマーズマーケットや農産物直売所での実証研究に取り組んで参りました。具体的には、農産物直売施設が果たす機能や出荷者行動に着目しながら、持続的経営に必要な諸条件について明らかにしました。

また、前職の農研機構では有機栽培の技術開発を行う組織に所属し、技術を導入した際に生じる経営費の変動や効果について農業経営の視点から分析を担当しておりました。大学院までは個人研究が中心でしたが、研究プロジェクトは異分野の研究者で構成されるため、専門外の研究者と交流する機会に恵まれました。管理作業を通して、専門の研究者から栽培管理や病害虫に関する基礎的知識についてご教示いただきました。技術的視点と専門分野である経営的視点を組み合わせることで研究を発展させることができ、共同研究の重要性を学びました。

現在は農業者の精神的健康に関心があり、農業者が持続的に従事するにはどのような労働環境や働き方が求められているのかを明らかにする研究に取り組みたいと考えています。クオリティ・オブ・ライフや幸福度調査で上位を占めているヨーロッパ地域での調査を検討しており、国際共同研究に向けて準備を進めています。また、当研究は社会学などの他領域にも関連するため、異分野の研究者との連携を図りたいと考えています。

今後は自身の研究活動のみならず、学生指導にも注力したいと思います。学生の研究・留学支援や国際色豊かな学生の受け入れを通して、グローバル社会で活躍できる人材の育成に努めます。

まだまだ未熟な身ではありますが、研究・教育に精進して参ります。戸定会の皆さまには、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



## 学科近況

### 園芸学科の近況

園芸学科長 教授 中 野 明 正

園芸学科の近況をお知らせします。園芸学科では、令和7年3月に61名（内留学生1名）の卒業生を送り出しました。さらに、令和7年4月に68名（内留学生1名）の新入生を迎えました。卒業生の進路は、栽培・育種学プログラムでの進学は46%、就職の内、農業・林業が11%、地方公務員が8%、小売業8%、食品飲料5%、国家公務員5%、金融業3%、卸売行3%、情報通信業3%、自営業3%であり、就職準備中5%となっています。生物生産プログラムでは進学は68%、就職の内、情報通信業12%、金融業8%、国家公務員8%、運送用機械器具製造業4%となっています。

人事では松岡延浩教授が令和7年3月末で定年退職されました。令和7年4月からの新教員の着任は、日出間純特任教授、菅野明教授（蔬菜園芸学）、浦口晋平准教授（植物栄養学）です。大川克哉先生（果樹園芸学）と黒沼尊紀先生（花卉園芸学）が准教授に昇任されました。

また、2023年1月より設置されている宇宙園芸研究センターの中心となって研究を推進する宇宙園芸研究室も設置され、高橋秀幸センター長を筆頭に、日出間純先生、近藤悠先生を中心に運営が始まりました。今後学部生も受け入れ園芸学科の活性化も図られます。

これらの取り組みと関連して、柏の葉キャンパスにバイオヘルスオープンイノベーションハブ（通称BIH）が整備され、2025年5月23日に開所式が催されました。柏の葉では後藤英司部門長、中野明正部門長を中心に、医薬園連携および新たに設置された株式会社千葉大学コネクと共働した産学連携により、幅広く研究成果の社会実装が促進されることが期待されています。



BIH開所式（2025年5月23日）で実施された輝翠株式会社の果樹園での自動走行運搬ロボットのデモの様子（左にロボット、右にBIHのA棟、奥にはブドウおよびナシの樹園が見える）。

## 応用生命化学学科の近況

応用生命化学学科長 教授 児玉 浩 明

戸定会会員の皆様方には、日頃より学科の活動にご支援いただき、篤くお礼申し上げます。応用生命化学学科の近況をお知らせします。教員の人事面では昨年から変更はございません。

学生生活に関して、今年の新入生対象の応用生命化学セミナー合宿は6月に「高尾の森わくわくビレッジ」で行われました。卒業生の中村絵里氏（三栄源エフ・エフ・アイ㈱）と三田郁也氏（長谷川香料㈱）が大学生活の振り返り、および社会人生活などについて講演してくださいました。合宿によって1年生の間で互いをよく知り対話する機会になりました。

研究に関しては、相馬亜希子講師が国内外の研究グループとの共同プロジェクトにより、生命の設計図であるDNAの遺伝情報からタンパク質を合成する新たなメカニズムを明らかにし、その研究成果は学術誌「Nature Chemical Biology」に掲載されました。植物と病原性バクテリアという進化的に遠い生物のタンパク質合成に共通のメカニズムであることから、生命の根幹を担う遺伝情報の進化という知的資産の蓄積に貢献するだけでなく、医療や農業分野への応用が期待されます。学生の研究成果としては、修士1年生の松岡里奈さん、森本春花さん（共に指導教員：児玉教授）が、2025年11月にベルギーで開催されるThe 17th International Society for Biosafety Research (ISBR) Symposiumにおいて、優れた研究発表を支援するStudent Scholarshipを獲得しました。両名には旅費、滞在費、シンポジウム参加費がISBRより支給されます。松岡さんは「タンパク質の消化性とアレルギー発症の相関に関する研究」、森本さんは「RNA介在型DNAメチル化個体由来するヌルセグレガントのオミックス解析」というタイトルの発表で、どちらも食品の安全性に関する研究を発表する予定です。

R6年度の当学科の大学院進学率は88%となっており、大学院修了後の就職先としては、昭和産業、ハウス食品、森永製菓、日清オイリオ、ロッテ、キリンホールディングスなどで、例年と同様に食品関連会社への就業割合が高い結果となりました。

以上簡単な近況報告ではございますが、今後とも学科活動へのご協力をお願い申し上げます。



応用生命化学セミナー合宿における体験学習の様子

## 緑地環境学科の近況

緑地環境学科長 教授 岩崎 寛

はじめに卒業生の就職状況についてご報告いたします。ここ数年、3プログラムとも、大学院への進学が最も多く、令和6年度の大学院進学率は環境造園学が49%、緑地科学、環境健康学ともに38%でした。次いで、地方公務員となっています。近年の傾向として、民間企業については、大学での専門性だけではなく、本人のライフスタイルに合った企業を選ぶ傾向が強く、幅広い業種に就職しています。

学生の受賞が相次ぎました。2025年度日本造園学会100周年記念U-35アイデアコロキウムにおいて、大学院生の炭村匠海さん、戸高悠雅さん、佐々木達有さん、謝利亜さんが優秀賞および審査委員特別賞を受賞されました。また、大学院生の村上善明さんが日本都市計画学会2024年優秀論文賞を受賞されました。学内表彰としては、令和6年度学術研究活動等に対する学長表彰を大学院生の百川詠奈さんが受賞されました。また、全方位・挑戦的融合イノベーション博士人材養成プロジェクトの令和6年度最優秀賞を大学院生の梅原瑞幾さんが、園芸学研究科として初めて受賞されました。これらの受賞内容の詳細に関しては、学部ホームページのトピックス・イベント情報一覧から確認できますので、是非ご覧ください。

教員の活動としては、木下剛教授らによる千葉大学松戸キャンパスの図書館とその周辺空間をデザインした「千葉大学松戸アカデミック・リンク 緑のテラス」が、CLA（一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会）優秀賞を受賞されました。本プロジェクトにおいては、戸定会・二葉会を始めとする卒業生の皆様から多くのご支援を頂きました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。また、竹内智子准教授がNHK「クローズアップ現代」に出演され、都市で相次ぐ倒木被害について解説されたことも特筆されます。

以上、簡単な近況報告ではございますが、引き続き、学科活動へのご協力、ご支援をお願い申し上げます。



CLA優秀賞を受賞した「千葉大学松戸アカデミック・リンク 緑のテラス」

## 食料資源経済学科の近況

食料資源経済学科長 教授 栗 原 伸 一

はじめに、入学状況についてご報告いたします。本学科では、昨年度より後期試験における小論文が学部共通の「理科」に変更されましたが、依然として高い志願倍率を維持しており、前期5.6倍、後期8.5倍の中から、優秀な29名（休学者を除く）の新入生を迎えることができました。新入生ガイダンスにて自己紹介をしていただいた際は、非常に活気のある学生たちであり、今後の学生生活も充実したものとなることが期待されます。

続いて、人事についてご報告いたします。昨年に引き続き、今年も新たな助教をお迎えすることができました。椋田瑛梨佳（むくた えりか）先生です。椋田先生は、本学科の櫻井清一教授のご指導のもと、2023年に本研究科にて博士（農学）の学位を取得され、その後、農業・食品産業技術総合研究機構にて研究員としてご活躍の後、今年1月より本学科に着任されました。専門は海外におけるローカルフードシステムであり、特に台湾のファーマーズマーケットや農産物直売所の調査に精力的に取り組まれています。また、本学部が協定を結んでいる台湾・国立中興大学とのネットワークを有するなど、国際的な研究視座を備えた先生です。留学生指導や全員留学などの国際交流プログラムにおいても、今後のご活躍が大いに期待されます。

最後に研究活動についてご紹介いたします。本年度は、加藤弘祐助教の研究が、科学研究費助成事業・基盤研究（C）に採択されました。本研究では、食品に関する誤情報（消費者心理に与える影響を解明し、映像やテキストなど異なる提示手法による心理的介入の有効性を、日米比較を通じて検証することを目的としています。将来的には、誤情報による風評被害の抑制や、正確な食品リスクコミュニケーションの確立に貢献することが期待される、非常に意義深い研究です。

以上、簡単ではございますが、食料資源経済学科の近況をご報告いたしました。卒業生の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援とご厚情を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



（写真：いずれも椋田先生提供）台湾における農産物直売所の調査風景

## 園芸産業創発学プログラムの近況

園芸学科 大 川 克 哉

園芸産業創発学プログラムは、次世代園芸産業の担い手の育成を目的に、園芸学科および食料資源経済学科に学科横断的に設置した特別教育カリキュラムです。早いもので、2016年に発足してから今年でもう11年目となります。園芸学部卒業生の就職先が多様化する中で、この園芸産業創発学プログラム卒業生の大半は農業、園芸および食品関連業界に就職し、それぞれの場で活躍しております。

園芸産業創発学プログラムでは、実践的で専門性の高い演習や先進地視察、インターンシップなどの特別科目（9科目）を設け、早期から卒業後の進路（職業）やそのためのスキルアップを学生に意識させることに重点をおいた教育を行っています。昨年度は、先進地視察をアグリステーション誠和（栃木県）で行い、増田英莉子氏（院園前令3卒）にご案内いただきました。またインターンシップは、勘兵衛園（ナシ農家）、株式会社エバーグリーン富士見（苗生産）、株式会社アド・ワン・ファーム（野菜生産）、農研機構（農業環境研究部門）等で行い、農業現場が抱える問題に対する理解を深めています。プログラム履修学生は2年生の最初から専門分野を決定し、各研究室に配属されます。各研究室で学生は、それぞれ課題を持ち、その解決に向けて実験や技術開発を行っています。毎年3月にはこれらの成果発表会を行っているのですが、中には4年生の卒論レベルの発表を行う学生もいます。現在、プログラムには3年生3名および2年生2名が在籍しています。4年生および1年生がいないこともあり、やや寂しいですが、少数精鋭で日々、知識や技術の修得に励んでいます。

戸定会会員の皆様には、園芸産業創発学プログラムの教育、また関連学部科目の「園芸ビジネス論」等において、多大なご協力を頂いております。この場を借りて厚く御礼を申し上げます。一方、この園芸産業創発学プログラムのための園芸産業創発学プログラム選抜（特別入試）の志望者がやや減少しております。戸定会会員の皆様のお身近に、園芸産業に強い関心がある、あるいは将来の農業後継者として期待されている高校生等がおりましたら、是非ともこのような特別カリキュラムがあることを宣伝していただけると幸甚です。



園芸産業創発学プログラム演習Ⅲにおいて自作した養液栽培装置での試験栽培の成果を披露するプログラム履修学生

## 環境健康フィールド科学センターの近況

環境健康フィールド科学センター長 渡 辺 均

環境健康フィールド科学センターの近況をご報告します。柏の葉キャンパス発足当時は、緑に囲まれたのどかな雰囲気のカンパスでしたが、周辺に高層マンションや民間企業の研究施設等が建設され、すっかり街中にあるキャンパスになりました。

昨年度は教員の人事異動はありませんでしたが、受賞関係では初代センター長の古在豊樹名誉教授が令和6年度の文化功労者に選出されました。その祝賀会が当センター、園芸学研究院、NPO植物工場研究会の主催で4月に柏の葉で開催されました。海外の卒業生を含めて100名を超える関係者が集まり盛大に執り行われました。

また、令和7年度科学技術分野における文部科学大臣表彰を池井晴美准教授が「自然が人にもたらす生理的リラックス効果に関する研究」により若手科学者賞を受賞されました。同分野のますますの研究の発展が期待されます。

施設関係では、柏の葉キャンパス正門近くに産学連携拠点として、「BIH（バイオヘルス・オープンイノベーション・ハブ）」がオープンしました。当センターと民間企業との共同研究もいくつか提案されており、多方面での研究の進展が期待されています。また、施設の一部は、園芸学研究院附属宇宙園芸研究センターの研究施設が利用し、完全閉鎖型実験施設でゲノム編集、遺伝子組換えイネ栽培等の研究を行なう予定です。

農場実習は園芸学研究院の先生方のご支援・ご協力により、センター内で年間を通して実施されております。校外農場（森林環境園芸農場・群馬県沼田市）での実習では、長らくコロナ禍対応のため宿泊実習が行われておりませんでした。昨年度から食料資源経済学科1年生の実習が再開され、今年度からは園芸学科1年生の実習も行われるようになりました。リンゴの摘果や葉かき、収穫作業など、郊外農場でしか学ぶことができない実習が再開されたことは大変意義深いことです。また、寝食を共にして行われる宿泊実習は、学生間のコミュニケーションを深める良い機会にもなったようです。

海外の協定校からの学生を対象とした植物工場や施設園芸に関わる研修プログラムも継続して実施しています。令和6年度からは短期のプログラムとして、中国・南京農業大学の学部生を対象とした10日間のサマープログラムを開始し、7月に24名が来訪しました。

イベントとしては、例年どおり11月3日(文化の日)にセンター祭（農場生産品即売会）が開催され、多くの方にご来場いただきました。また、本年より12月の第3土曜日にシクラメンの即売会（シクラメン祭）の開催も予定されております。

農場生産品を販売する「緑楽来(みらくる)」は、平日の13時～15時に開店しております。農場内で収穫した新鮮な野菜や果物、ジャムやハチミツ、花苗や鉢花、苗木などを販売しております。お近くにお越しの際には、是非お立ち寄りください。



満開の八重桜並木と4月にオープンしたBIH棟

## 63年後のクラス会 幹事 秋永 正道（農化昭37）

昭和37年卒業、農化クラス会を去る6月7日(土)東京の御徒町で挙行致しました。

コロナ禍で開催出来なかったのが6年振りとなりました。我々の仲間は年齢が85歳から88歳で当日の出席者は9名、欠席者9名、物故者10名(特別会員3名含む)でした。特にこの5年間で80代前半だったせいか、8名の仲間が逝ってしまいました。

冒頭に物故された仲間に黙祷を掲げ、宴会は三上幹事の司会のもと約3時間近況報告を中心に行いました。自分の体調のことは少なく、松戸での学生生活や今悩んでいること、これからのことなど千差万別の話題でした。

すっかり65年も昔の仲間に戻り、賑やかで楽しい時間を過ごすことが出来ました。ストレス発散、情報交換などなどそれぞれ感慨深いものがあつたと思っています。これからは100歳の時代を迎えます。身体の小さな故障は乗り越えて又、元気に集まって楽しくおしゃべりが出来るよう人生頑張っていくことを約束して、閉会と致しました。



## 栃木県支部の活動

栃木県支部長 平 石 厚 夫（園昭54）

栃木県支部では、令和7年7月に戸定会本部から富岡副会長をお招きして、総会及び講演会を開催しました。講演会では、H元年卒の竹下大学氏から『「食」と「農」の間の壁とその壊し方』と題して講演してもらい、品種とその背景となる史実を組み合わせ、一般の消費者に知ってもらう機会を創出するなど、園芸品種やそれに関わる人材がもっと世の中から注目されるヒントをもらい、大いに盛り上がりました。

また、10月には、県内益子町で、支部会員である宇大の西山教授が企画運営している「里山キャンパス益子家」を現地研修する予定であり、農村地域の農業生産や農ある暮らしへの理解を深めるとともに、会員間の交流を深める機会として大変楽しみにしております。



栃木県支部総会・講演会（令和7年7月5日）



ができました。

昨年度の総会は、令和6年9月28日（土）に、齋藤京子戸定会会長をお招きして、千葉市内において16名の参加を得て開催しました。

齋藤会長からは、これからの戸定会の在り方や千葉大学園芸学部近況などについてお話をいただいた他、南雲一夫様（元県立千葉女子高校校長 園昭48卒）に、「私のスピーチ人生」と題して御講演をいただき、話し方の妙（極意）に参加者が聞き入っておりました。

総会後の懇親会では、参加者がそれぞれ近況を報告しあって、和やかな時間を過ごしたところです。ありがとうございました。

千葉県には戸定会千葉県支部の他に県庁戸定会有り、私も現役の時は県庁戸定会に所属しておりました。戸定会千葉県支部は大学の地元支部でもあり、県庁戸定会の現役職員との交流も含め、園芸学部の後援組織として、かつOB各位が楽しく連携できるような活発な支部にしたいと思っています。

勝手なお願いですが、戸定会本部の皆様をはじめ、千葉県支部会員皆様のより一層の御協力・御理解をこの場をお借りしてお願い申し上げます。



## 戸定会広島県支部の活動について

広島県支部長 真 宅 成 光（造昭41）

広島県支部では令和6年11月16日に広島エアポートホテルにて令和6年度支部総会並びに懇親会を開催しました。本部からは齋藤京子会長と緑地環境学科柳井重人教授が参加してくださり、戸定会や大学の状況について理解を深める良い機会になりました。

今回は今までの開催スタイルとは異なり、総会前に研修会を開催し懇親会はバーベキューパーティーの形式で実施しました。

研修会は一般社団法人中央森林公園協会小松光二郎理事長（昭和46年造園学科卒）を講師に迎え「日本庭園「三景園」の成り立ちと基本構想現地講演及び案内」という演題で

## 令和6年度千葉県支部総会報告

千葉県支部長 石 田 和 也（園経昭57）

昨年、戸定会千葉県支部長に就任しました。伝統ある戸定会のために微力ながら頑張ります。

さて、千葉県に居住する戸定会の人数は、おそらくどの都道府県よりも多い（創立からの累計は軽く2,000人は超えている）と思います。これまで、支部の総会の連絡はハガキでおこなっていましたが、昨年度はメールでのご案内をさせていただいたところ、多くのコメントをいただき、近況を知ること

実施しました。

総会後の懇親会はホテル内にあるバーベキューガーデンで開催し、お互いの近況報告や情報交換を行い交友を深めました。

また、支部役員会を令和6年7月11日に開催し、本部総会の報告や今後の支部活動について協議しました。



## 令和6年戸定会新潟県支部の活動

新潟県支部 伊藤直子（化専昭57/院自後平9）

11月9日、新潟市万代市民会館において、本部から富岡典子副会長様をお招きし、17名の参加にて新潟支部総会等が開催されました。

総会後、森山勉氏（園平元卒）から、魚沼地域でのユリ栽培についてスライドを使い講演をしていただきました。ユリは戦後から栽培され始め、バブル期にはカサブランカという品種がブームとなり、結婚式やパーティーなどで使われるようになりました。近年では家庭で飾れるような小型でバラエティーに富んだユリが主流になっているそうです。次回の支部活動はスライドで眺めたユリを、現地で見学しようということになりました。



講演後は居酒屋に場所を移し、お酒を酌み交わしながら、各自の近況や学生時代の思い出、仕事の話などで大いに盛り上がりました。初参加の方も加わり、大変和やかな雰囲気のもと、いろいろな話が聞け、よい集まりとなりました。またの再会を楽しみにしたいと思います。



## 令和6年度長野県支部総会等報告

長野県支部長 高木幸一郎（生管昭54）

令和6年10月19日に長野市内で支部総会を開催しました。15名の参加があり本部からは加藤一郎相談役にご臨席をいただきました。

総会では理事の選任等が承認されました。総会終了後は会員の片桐雅樹氏（総会時：長野県農村工業研究所常務理事）から「長野県農村工業研究所の立地から考察される信州の各種産業」と題して講演をいただきました。長野県で隆盛を極めた養蚕業・製糸業の歴史及びこれらの産業がその後の地域農業や社会の活性化につながっている歴史について説明がありました。

最後に懇親会を行いました。初参加された若い方がおられましたが、取り組まれている事業のお話に参加者は大いに刺激を受けたようです。さらに他県支部会員の参加もあり、支部を超えた交流も進み大変有意義な懇親会となりました。今後より多くの方に参加いただき、更に活発な交流が行われる支部になるようにしていければと思っています。



## 群馬県支部だより

群馬県支部事務局 櫛川 聡（院自後平12）

令和6年度群馬県支部総会は、11月に高崎で開催し15名が参加しました。当日は、支部会員松井孝夫さんによる講演「体験農園がつなぐスラッシュキャリア～環境教育・自然

保護・地域づくり」をいただきました。尾瀬や体験農園で展開される経験と気づきに基づく教育方法など的大変興味深い内容で、活発な質疑が交わされました。

戸定会本部からは、賀来宏和副会長にご参加いただき、園芸学部近況をお話いただきました。園芸学部の近況は、参加会員には毎年好評でして、こちらも活発な質疑が行われていました。続いて行われました懇親会も大変盛り上がりました。参加された皆さま大変お元気そうな様子でした。来年度の開催を楽しみにしたいと思います。



## 戸定会埼玉県支部総会

埼玉県支部事務局 高橋 黄穂美（園別平19）

戸定会埼玉県支部では、現役の学生にもご参加いただき今年度は20名の方々とベルヴィ大宮サンパレスGLANZにて開催致しました。

講演会では、2名の方にご講演いただきまして、埼玉県川越農林振興センター所長吉岡幸夫様（園平2年卒）から「埼玉県の農林水産業、振興政策と最近のトピックスについて」という内容で、埼玉県は733万人（全国第5位）の県民を始め、4,432万人の消費者を有する首都圏に位置し、温暖で比較的に自然災害の少ない立地条件を活かし、多彩な農産物が生産されているということで、お米やいちごなどの話題がありました。公益社団法人埼玉県農林公社農地コーディネーター篠崎豊様（園昭58年卒）からは、「全国植樹祭について」という内容で、5月25日に秩父ミューズパークで行われた、埼玉県では第10回大会以来66年ぶり2回目の植樹祭についてお話しいただきました。



今後とも多くの会員の皆様にご参加いただき、活発な会になればと願っております。

## 令和6年度山形県支部総会

山形県支部幹事長 森谷 真紀子（生物平15）

戸定会山形県支部では、令和7年1月25日に令和6年度山形県支部総会、講演会ならびに懇親会を開催しました。総会では直近10年では最多となる19名の参加者が顔を合わせて、初めて参加される若い方もおられたことが幹事としては嬉しい限りでした。今年は、支部会則の申し合わせ事項に従い、喜寿を迎えた4名の支部会員を皆でお祝いすることができ、支部会員が勤務する老舗園芸店「出羽園」さんの花束を贈呈いたしました。今回の戸定会本部からは、齋藤京子会長および彦坂晶子先生に参加して頂き、戸定会および園芸学部の近況を報告して頂きました。講演会では、古野伸典氏（生物平7）から「東北農林専門職大学が目指すもの」と題して、これからの農林業経営者の育成について講演を頂きました。懇親会では、参加者同士が懐かしい昔話から最近の情報まで幅広い話題で盛り上がり、楽しい時間を過ごすことができました。今後も、更に多くの支部会員が楽しく参加できるような支部運営に努めてまいります。



## 茨城県支部総会の報告

茨城県支部長 高 栖 敬（生管昭47）

2025年度の茨城県支部総会を7月12日に県東の鉾田市で開催。4月20日に現地で役員会を持ち原案を決定、矢口達弥事務局長を軸に額賀鹿行支部長他役員が一丸となって取り組む。鉾田市は全国有数の農業地域で、農産物の生産額は全国第2位、中でもメロン、甘藷は全国1位、イチゴは2位、栽培技術もトップクラスといわれる。その中でも県内トップランナーのイチゴ農家村田農園の見学とあって学ぶことが沢山。栽培では害虫防除に高濃度炭酸ガスの利用、

米糠による土壌消毒、独自の肥料開発など安全安心への努力、村田農園のブランドづくり。さらに販売も市場、洋菓子店、料亭、海外輸出に応じたパッケージづくりなど意欲的に取り組んでいる。園芸学部



部の原点にかえったような見学会で学ぶことが多かった。

総会では本部の賀来・富岡副会長から園芸学部の近況や戸定会の取り組みの報告、討論では支部活動活性化についてなどが論議され有意義な会となった。参加者は18名。



## 戸定会山梨県支部の活動について

山梨県支部事務局 池田博彦（園平5/園専平7）

戸定会山梨県支部では、年に1回のペースで総会を兼ねたセミナーを開催しています。

セミナーでは、会員のこれまでの活動に関することや農業関連企業の最新技術、また県職員が多いことから、農政の動向や県の施策情報、最新の試験研究情報など、様々な内容について、会員が講演を行っています。

支部の活動は、コロナ禍で令和元年度に予定したセミナーが延期となって以来、長らく休止となっていました。が、令和7年3月に6年ぶりに活動を再開しました。



セミナーでは、会員18名と本会から2名のご参加をいただき、会員の高根氏（化昭52）がライフワークとして取り組んでいる「花桃について（遺伝形質と品種の保存）」についての発表を聴講しました。

続いて行った懇親会では、令和の卒業生など新たな参加者もあり、会員同士の交流が活発に行われていました。

山梨県支部では今後も定期的な活動に取り組んでいく予定です。

## 戸定会福岡県支部総会報告

福岡県支部事務局 二又朋則（生生平16）

令和6年11月16日（土）、福岡県久留米市において、令和6年度戸定会福岡県支部総会を開催しました。会員24名が出席し、百原新園芸学研究院長と木内博和本部理事にもご参加いただきました。

見学会では、植物生産、商品加工、流通デザインの分野で活躍する会社訪問を行いました。有限会社タシロ（環境緑化樹木生産販売）、KYOHO JAPAN 株式会社（巨峰ワイナリー）、金華園（植木生産、ガーデン）を見学し、各企業の取り組みについて学びました。

植木の産地として有名な久留米市では、現在元気な「有限会社タシロ」を訪問させて頂き、植木の生産、流通の現在の状況の中で、どのようなビジネスにチャンスがあるのかをお聞きすることが出来ました。

久留米市田主丸町は、日本で初めて巨峰の生産が始まった所でもあり、そこで長年巨峰ワインを生産されているKYHO JAPANでは、最近の梅雨時期での豪雨により、生産が難しくなっているという話が聞けました。

最後の金華園では、最近流行のナチュラルスティックガーデンでよく使われるグラス類の魅力を見本ガーデンを見ながら説明を聞く事が出来ました。

百原先生より現在の千葉大学園芸学部について、宇宙園芸、学生全員留学などの話は興味深く聞かせて頂きました。



# 令和7年度戸定会役員

(敬称略・順不同 ★前年総会以降新任 ◎学部連携委員)

令和7.7.11現在

|            |           |                          |                |                          |                 |                  |                 |                |               |       |  |
|------------|-----------|--------------------------|----------------|--------------------------|-----------------|------------------|-----------------|----------------|---------------|-------|--|
| 名誉会長（研究院長） |           | ◎百原 新                    |                |                          |                 |                  |                 |                |               |       |  |
| 相 談 役      |           | 伊東 正                     |                | ◎加藤 一郎                   |                 |                  |                 |                |               |       |  |
| 監 事        |           | 福岡 秀実                    |                | 西川 嘉輝                    |                 | 郡司 正博            |                 |                |               |       |  |
| 理 事        | 会 長       | ◎齋藤 京子                   |                |                          |                 |                  |                 |                |               |       |  |
|            | 副 会 長     | ◎賀来 宏和                   |                | ◎富岡 典子（学内）               |                 | ◎古谷 勝則           |                 |                |               |       |  |
|            | 常任理事      | 東京                       | 濱田 豊<br>小寺 孝治  |                          | 中島 宏 篤<br>染谷 篤  |                  | 住吉 泰男<br>★五十嵐清晃 |                | 外木 秀明         | ◎町田 誠 |  |
|            |           | 千葉                       | ★石田 和也<br>藤家 梓 |                          | ◎奥倉 努<br>★福地 信彦 |                  | 齊藤 威            |                | 富樫 俊彦         | 長嶋 孝志 |  |
|            |           | 埼玉                       | ★◎前田 敏之        |                          | 間仁田 勝           |                  | ★星 誠            |                | 吉岡 幸夫         | 吉澤 祥匡 |  |
|            |           | 神奈川                      | ★井上 治郎         |                          | ◎小山 義訓          |                  | ★上井 憲治          |                | 山田 康博         | 中野 敏夫 |  |
|            |           | 茨城                       | ◎高栖 敬<br>渡邊 朝治 |                          | 小竹 節            |                  | 長岡 徳樹           |                | 額賀 敏          | 矢口 達弥 |  |
|            |           | 学内                       | (庶 務)          |                          | 秋田 典子           |                  | ★長 泰行           |                |               |       |  |
|            |           |                          | (会 計)          |                          | 彦坂 晶子           |                  | ★出口亜由美          |                |               |       |  |
|            |           |                          | (会報・名簿)        |                          | ★濱 侃            |                  | 相馬亜希子           |                | 竹内 智子         | 矢野 佑樹 |  |
|            |           |                          | (広報・HP)        |                          | 古谷 勝則           |                  |                 |                |               |       |  |
|            | 戸定学術振興委員会 |                          | (委 員 長)        |                          | 中野 明正           |                  |                 |                |               |       |  |
|            | 本部理事      |                          | 吉岡 重明<br>佐藤菜穂子 |                          | 萩野 一彦<br>初谷 結花  |                  | 志賀 聡<br>木内 博和   |                | 岩上 哲也         | 篠崎 豊  |  |
|            | 支 部       | 支 部 長                    | 理 事            |                          |                 |                  |                 |                |               |       |  |
|            | 北海道       | 石村 寛人                    | 木村 篤           |                          | 橋本 雅之           |                  | 阿部 克巳           |                | 土谷 美紀         |       |  |
|            | 青森        | 若宮 佳一                    |                |                          |                 |                  |                 |                |               |       |  |
|            | 岩手        | 佐藤 明                     | 山口 貴之          |                          |                 |                  |                 |                |               |       |  |
|            | 宮城        | 篠崎 淳                     | 遠藤 進           |                          | 近藤 寛            |                  | 齋藤 健            |                |               |       |  |
|            | 秋田        | 伊藤 博之                    | 大隅 専一          |                          | 山下 光弘           |                  |                 |                |               |       |  |
|            | 山形        | ★沖田 政明                   | 奥山 寛子          |                          | ★古野 伸典          |                  | ★丸山 康広          |                |               |       |  |
|            | 福島        | 安斎 正典                    | 草野 忠次<br>齋藤 勇樹 |                          | 鈴木 安和           |                  | 菱沼 勇            |                | 早福 晃          | 金成理恵子 |  |
| 茨城         | 高栖 敬      | 岡田 勉<br>中野 一正            |                | 岡田 晴雄<br>寺田 誠            |                 | 鈴木 榮<br>田宮 賢     |                 | 鶴長 文正<br>蓮沼 俊男 | 内藤 栄<br>信田 菊江 |       |  |
| 栃木         | 平石 厚夫     | 田中 敏夫<br>田邊 千知           |                | 小池 毅                     |                 | 高野 孝夫            |                 | 寶示戸寿弘          | 直井 昌彦         |       |  |
| 群馬         | 白石 俊昌     | 木村 光一<br>木村 康夫           |                | 酒井 宏<br>小倉愉利子            |                 | 根岸 始<br>浅見 暁子    |                 | 村岡 邦三          |               |       |  |
| 埼玉         | ★前田 敏之    | 木口 恒夫<br>★南原 恵子          |                | 鈴木 邦彦<br>★高橋黄穂美          |                 | 星井 静一<br>★龍島 雅之  |                 | 細井 民興          | 長谷川 勲         |       |  |
| 千葉         | ★石田 和也    | 秋葉 利雄<br>★齊藤 俊一<br>南雲 一夫 |                | ★加藤 正道<br>鈴木 健<br>★深澤 嘉人 |                 | 甲田 暢男<br>鈴木 孝    |                 | 越川 浩樹<br>砂盛恵理子 | 小滝 秀策<br>曾我 浩 |       |  |
| 東京         | 濱田 豊      | 加藤 正明<br>前田 誠            |                | 木村 栄一<br>三好 貴紀           |                 | 樋渡 達也<br>山下 容子   |                 | 馬場 勝<br>田中 淳一  | 平澤 貴弘         |       |  |
| 神奈川        | ★井上 治郎    | 相場 崇<br>★鈴木 幸子           |                | ★井上 雅人<br>★塚原 潤          |                 | ★小田切克治<br>★松田 純一 |                 | ★岡本 昌広<br>安 健夫 | 鈴木 貴          |       |  |
| 新潟         | ★森山 勉     | 中野 優                     |                | ★齋藤 健治                   |                 | 和田 祥子            |                 | 伊藤 直子          |               |       |  |
| 富山         | ★酒井 尚裕    |                          |                |                          |                 |                  |                 |                |               |       |  |
| 石川         | 安田 公平     |                          |                |                          |                 |                  |                 |                |               |       |  |
| 福井         | 北倉 芳忠     | 小林 恭一                    |                |                          |                 |                  |                 |                |               |       |  |
| 山梨         | ★山本 賢治    | ★保坂 元信                   |                | ★高根 明雄                   |                 | ★相川 勝六           |                 |                |               |       |  |
| 長野         | 高木幸一郎     | 浦野 真一<br>三田 毅            |                | 金子 能呼<br>千野 博敏           |                 | 杉山 利広<br>★小松真知子  |                 | 中山 正男<br>★前島 勤 | 西村 清利         |       |  |
| 岐阜         | 成瀬 秀博     |                          |                |                          |                 |                  |                 |                |               |       |  |
| 静岡         | ★新田 明彦    | 佐原 宏康                    |                | 藤浪 正康                    |                 | ★細谷 勝彦           |                 | 吉川 公規          |               |       |  |
| 愛知         | 風間 一      | 梶野 保光                    |                | 原 幹博                     |                 |                  |                 |                |               |       |  |
| 三重         | 堀川 義昭     | 田中 貞朗                    |                |                          |                 |                  |                 |                |               |       |  |
| 滋賀         |           | 江見 和綽                    |                |                          |                 |                  |                 |                |               |       |  |
| 京都         | 加藤 友規     |                          |                |                          |                 |                  |                 |                |               |       |  |
| 大阪         | 中西 広樹     | 仲村 啓                     |                | 當内 匡                     |                 | 松原 秀也            |                 |                |               |       |  |
| 兵庫         | 坂田 正史     | 大西 潤                     |                | 原田 充                     |                 | 広脇 淳             |                 |                |               |       |  |
| 奈良         | 國本 佳範     |                          |                |                          |                 |                  |                 |                |               |       |  |
| 和歌山        | 鈴木 惣禄     |                          |                |                          |                 |                  |                 |                |               |       |  |
| 鳥取/島根      |           |                          |                |                          |                 |                  |                 |                |               |       |  |
| 岡山         | 加藤 泉      | 難波 久一                    |                | 山田 貞宜                    |                 | 河田 育康            |                 |                |               |       |  |
| 広島         | 真宅 成光     | 立川 真成                    |                | 国野 友子                    |                 | 中野 麻美            |                 |                |               |       |  |
| 山口         | 多々良美春     | 石光 照彦                    |                | 多々良健司                    |                 |                  |                 |                |               |       |  |
| 徳島         | 中野 一雄     |                          |                |                          |                 |                  |                 |                |               |       |  |
| 香川         | 安藤 昭則     |                          |                |                          |                 |                  |                 |                |               |       |  |
| 愛媛         | 影浦 章次     |                          |                |                          |                 |                  |                 |                |               |       |  |

|      |       |        |       |       |        |        |        |
|------|-------|--------|-------|-------|--------|--------|--------|
|      | 高知    | 高野 恵子  | 楠瀬 武司 |       |        |        |        |
|      | 福岡    | 日高 輝富  | 濱岡 治  | 中村 英詩 | 二又 朋則  | 宗 健児   |        |
|      | 佐賀    | 久保 和則  |       |       |        |        |        |
|      | 長崎    | 峠 純秀   | 渡部美貴子 |       |        |        |        |
|      | 熊本    | 五嶋 映司  | 清住 昇  | 坂口 信夫 |        |        |        |
|      | 大分    | 志手 博   | 伊東 壮  |       |        |        |        |
|      | 宮崎    | 武内 和俊  | 押川 裕文 | 中武 卓博 |        |        |        |
|      | 鹿児島   | 城戸 清志  |       |       |        |        |        |
|      | 沖縄    | 花城 良広  |       |       |        |        |        |
| 海外支部 | 中国・北京 | 安 玉堯   |       |       |        |        |        |
|      | ・南京   | 朱 月林   |       |       |        |        |        |
|      | 台湾    |        |       |       |        |        |        |
|      | 韓国    |        |       |       |        |        |        |
| 学内理事 |       | 全 昶厚   |       |       |        |        |        |
|      |       | 秋田 典子  | 小川 幸春 | 後藤 英司 | 相馬亜希子  | 野田 勝二  | ★椋田瑛梨佳 |
|      |       | 天知 誠吾  | 加藤 顕  | 近藤 悠  | 園田 雅俊  | 野村 昌史  | 宮原 平   |
|      |       | 井川 智子  | 加藤 弘祐 | 齋藤 隆徳 | 高橋 一聡  | ◎華岡 光正 | ◎百原 新  |
|      |       | 池井 晴美  | 加川 夏子 | 齋藤 雪彦 | 高橋 輝昌  | 濱 侃    | 八島 未和  |
|      |       | 岩崎 寛   | ★菅野 明 | 坂本 一憲 | 高橋 秀幸  | 彦坂 晶子  | 柳井 重人  |
|      |       | 上原 浩一  | 菊池 真司 | 櫻井 清一 | 竹内 智子  | ★日出間 純 | 矢野 佑樹  |
|      |       | 宇佐見俊行  | 木下 剛  | 佐々 英徳 | 武田 史朗  | 平井 静   | 吉田 行郷  |
|      |       | 梅木 清   | 栗原 伸一 | 穴戸 雅宏 | 長 泰行   | 深野 祐也  | 吉田 英生  |
|      |       | ★浦口 晋平 | 黒沼 尊紀 | 島田 貴士 | 塚越 覚   | ◎古谷 勝則 | 魯 娜    |
|      |       | 江頭祐嘉合  | 江 暁欽  | 霜田 亮祐 | 出口亜由美  | ◎丸山 敦史 | 渡辺 均   |
|      |       | 近江 慶光  | 國分 尚  | 章 俊華  | 土肥 博史  | ◎三島 孔明 | 渡辺 洋一  |
|      |       | 大川 克哉  | 児玉 浩明 | 淨閑 正史 | ◎中野 明正 | 南川 舞   |        |

|           |       |       |       |       |       |  |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|--|
| 戸定学術振興委員会 | (委員長) | 中野 明正 |       |       |       |  |
|           |       | 齋藤 雪彦 | 吉田 行郷 | 華岡 光正 | 古谷 勝則 |  |

## 令和7年度 戸定会理事会総会報告

日 時 : 令和7年6月14日(土) 13:00～15:00  
場 所 : 千葉大学園芸学部 100周年記念戸定ヶ丘ホール  
出席者 : 71名(学外60名、学内11名) 委任状146名 合計217名  
(理事総数289名)  
司 会 : 古谷勝則学内副会長

- 開会の辞: 賀来宏和副会長
- 戸定会名誉会長挨拶: 百原新 戸定会名誉会長(園芸学研究院長)
- 戸定会会長挨拶: 齋藤京子会長
- 成立条件の報告・議長選出: 古谷勝則学内副会長から、総会の成立について報告  
慣例に従い戸定会会長齋藤京子氏が議長に選出
- 議事録署名名人選出: 長野県支部長高木幸一郎氏  
茨城県支部長高橋敬氏
- 議事:
  - 第1号議案 令和6年度戸定会会務及び事業報告 齋藤隆徳庶務担当学内常任理事  
令和6年度戸定学術振興委員会事業報告 中野明正戸定学術振興委員長
  - 第2号議案 令和6年度戸定会会計決算報告 井川智子会計担当学内常任理事  
令和6年度戸定学術振興基金収支報告 中野明正戸定学術振興委員長
  - 第3号議案 令和6年度戸定会会計監査報告 郡司正博監事
  - 第4号議案 令和7年度役員(案) 古谷勝則学内副会長
  - 第5号議案 令和7年度戸定会会務及び事業計画(案) 秋田典子庶務担当学内常任理事  
令和7年度戸定学術振興委員会事業計画(案) 中野明正戸定学術振興委員長
  - 第6号議案 令和7年度戸定会会計予算(案) 井川智子会計担当学内常任理事  
令和7年度戸定学術振興基金支出予算(案) 中野明正戸定学術振興委員長以上1号議案から6号議案まで拍手により賛成多数で承認された。

- 報告事項:
  - 戸定会名簿新規作成について 賀来宏和副会長
  - 戸定会寄付講義について 齋藤京子会長
  - 園芸学部戸定学術振興基金の計画的積立の必要性和今後のパートナーシップ会議での検討方向 古谷勝則学内副会長
  - 支部長会議報告 白石俊昌群馬県支部長
  - 加藤相談役挨拶
- 閉会の辞: 富岡典子副会長

### 令和6年度支部総会開催及び本部役員派遣の状況

| 開催日        | 支部名    | 開催場所                | 派遣役員                                |
|------------|--------|---------------------|-------------------------------------|
| 令和6年5月18日  | 奈良県支部  | 奈良市<br>大和酒彩 しゅん坊    | 派遣なし                                |
| 令和6年6月29日  | 埼玉県支部  | さいたま市<br>大宮サンパレス    | 加藤 一郎(戸定会相談役)<br>松岡 延浩(前研究院長) 学生1名  |
| 令和6年7月6日   | 栃木県支部  | 宇都宮市<br>ニューみくら      | 富岡 典子(戸定会副会長)<br>百原 新(研究院長)         |
| 令和6年7月15日  | 茨城県支部  | 筑西市<br>ザ・ヒロサワ・シティ   | 賀来 宏和(戸定会副会長)<br>古谷 勝則(戸定会学内副会長)    |
| 令和6年7月27日  | 東京都支部  | 千代田区四ツ谷<br>ブラザエフ    | 齋藤 京子(戸定会会長)                        |
| 令和6年7月27日  | 神奈川県支部 | 横浜市<br>福龍酒家         | 賀来 宏和(戸定会副会長)<br>渡辺 均(フィールド科学センター長) |
| 令和6年9月28日  | 千葉県支部  | 千葉市<br>京成ホテルミラマーレ   | 齋藤 京子(戸定会会長)                        |
| 令和6年10月19日 | 長野県支部  | 長野市<br>宴席 油や        | 加藤 一郎(戸定会相談役)                       |
| 令和6年11月9日  | 新潟県支部  | 新潟市<br>万代市民会館       | 富岡 典子(戸定会副会長)                       |
| 令和6年11月16日 | 群馬県支部  | 高崎市<br>LABIバンケット高崎  | 賀来 宏和(戸定会副会長)                       |
| 令和6年11月16日 | 広島県支部  | 広島市<br>広島エアポートホテル   | 齋藤 京子(戸定会会長)<br>柳井 重人(学内理事)         |
| 令和6年11月16日 | 福岡県支部  | 久留米市<br>市内見学ツアー・金華園 | 百原 新(研究院長)<br>木内 博和(戸定会本部理事)        |
| 令和6年11月30日 | 富山県支部  | 富山市<br>写楽           | 齋藤 京子(戸定会会長)                        |
| 令和6年11月30日 | 大分県支部  | 大分市<br>燈(ともる)       | 賀来 宏和(戸定会副会長)                       |
| 令和6年12月14日 | 静岡県支部  | 静岡市<br>クーボール会館      | 賀来 宏和(戸定会副会長)                       |
| 令和7年1月25日  | 山形県支部  | 山形市<br>ホテルNEW最上屋    | 齋藤 京子(戸定会会長)<br>彦坂 晶子(学内常任理事)       |
| 令和7年2月8日   | 沖縄県支部  | 那覇市<br>沖縄船員会館       | 賀来 宏和(戸定会副会長)                       |
| 令和7年3月15日  | 山梨県支部  | 甲府市<br>シャトレーゼホテル談露館 | 賀来 宏和(戸定会副会長)<br>佐藤 和美(戸定会事務局)      |

# 令和6年度園芸学部卒業生の就職先

| 業 種                   | 園芸学科                             |                                          | 応用生命化学科 | 緑地環境学科       |                              |                         | 食料資源経済学科                                                           |
|-----------------------|----------------------------------|------------------------------------------|---------|--------------|------------------------------|-------------------------|--------------------------------------------------------------------|
|                       | 栽培・育種プログラム                       | 生物生産プログラム                                |         | 環境健康学プログラム   | 環境造園プログラム                    | 緑地科学プログラム               |                                                                    |
| 農業・林業                 | 雪印種苗<br>サカタのタネ<br>ベルグアース<br>白井農園 |                                          | JA佐波伊勢崎 |              |                              |                         |                                                                    |
| 建設業                   |                                  |                                          |         | 東鉄工業         | 旭化成ホームズコ<br>ンストラクション         | アゴラ造園                   |                                                                    |
| 食料品・飲料・<br>たばこ・飼料製造業  | カルビー<br>ケンコーマヨネーズ                |                                          |         | アルプロン        |                              |                         | 日清オイリオグループ<br>ユニテックフーズ<br>ニッスイ                                     |
| 輸送用機械器具製造業            |                                  | 本田技研工業                                   |         |              |                              | 村上開明堂                   |                                                                    |
| 電気・ガス・熱供給・<br>水道業     |                                  |                                          |         |              |                              | 西原ネオ                    |                                                                    |
| 情報通信業                 | 柊ソフト開発                           | NTTデータCCS<br>日立製作所<br>エヌ・ティ・ティ・<br>コムウェア |         |              | NECソリューション<br>イノベーター         | 楽天グループ                  | ビッグツリーテクノ<br>ロジー＆コンサル<br>ティング<br>NTTデータグループ<br>NTTデータSMS<br>サインポスト |
| 運輸業・郵便業               |                                  |                                          |         |              |                              |                         | JR東海                                                               |
| 卸売業                   | マルイチ産商                           |                                          |         |              | 鈴与                           |                         | 丸石化学品<br>伊藤忠食糧                                                     |
| 小売業                   | イオンリテール<br>ニトリホールディングス           |                                          |         |              |                              |                         | ベイクルーズ                                                             |
| 金融業                   | 農林中央金庫                           | 大和証券<br>東京センチュリー                         |         |              |                              | オリックス銀行                 | 日本政策金融公庫<br>千葉銀行                                                   |
| 保険業                   |                                  |                                          |         |              |                              |                         | SL (STAFF LINK)                                                    |
| 不動産取引・賃貸・<br>管理業      |                                  |                                          |         |              | 三井不動産商業マ<br>ネジメント            |                         |                                                                    |
| 学術・開発研究機関             |                                  |                                          |         | 千葉大学         |                              |                         | 科学技術振興機構<br>農業・食品産業技<br>術総合研究機構                                    |
| その他の専門・<br>技術サービス業    |                                  |                                          |         |              | 日本工営都市空間<br>空間創研             |                         | アクセンチュア<br>ワールドカラー                                                 |
| 宿泊業・<br>飲食サービス業       |                                  |                                          |         |              |                              |                         | すかいらく                                                              |
| 生活関連サービス業・<br>娯楽業     |                                  |                                          |         | エスクリ         |                              |                         | TTC                                                                |
| 学校教育                  |                                  |                                          |         |              | 茨城県立中学校教員                    |                         |                                                                    |
| 医療業・保健衛生              |                                  |                                          |         | ベストメディカルサービス |                              |                         |                                                                    |
| サービス業（他に<br>分類されないもの） |                                  |                                          |         |              |                              | 東亜非破壊検査                 |                                                                    |
| 国家公務                  | 農林水産省<br>厚生労働省                   | 農林水産省                                    |         |              | 国土交通省                        |                         | 農林水産省<br>林野庁<br>関東農政局                                              |
| 地方公務                  | 千葉県庁<br>群馬県庁                     |                                          | 石川県庁    |              | 東京都庁<br>警視庁<br>杉並区<br>武蔵野市役所 | 東京都庁<br>千葉県庁<br>さいたま市役所 |                                                                    |

## 令和6年度大学院園芸学研究科修了生の就職先

| 業 種                   | 園芸学研究科環境園芸学専攻園芸科学コース                                               |                                                                                         | 園芸学研究科環境園芸学専攻ランドスケープ学コース                                      |                                                              |
|-----------------------|--------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 農業・林業                 | 農業・食品産業技術総合研究機構<br>サントリーフラワーズ<br>サカタのタネ                            | JAあいち経済連<br>全国農業協同組合連合会<br>千葉県本部                                                        |                                                               |                                                              |
| 建設業                   | 日揮                                                                 |                                                                                         | ヒュマス<br>西武造園<br>日建設計<br>三菱地所設計<br>大成建設<br>NEXCO中日本<br>日比谷アメニス | 日本工営<br>東京建設コンサルタント<br>大林組<br>バシフィックコンサルタンツ<br>清水建設<br>竹中工務店 |
| 食料品・飲料・<br>たばこ・飼料製造業  | ハウス食品<br>森永製菓<br>ニッポン<br>新進<br>ニチレイフーズ<br>雪印メグミルク<br>テーブルマーク<br>明治 | サントリーホールディングス<br>昭和産業<br>マルコメ<br>UCC上島珈琲<br>日清オイリオグループ<br>キリンホールディングス<br>ロッテ<br>味の素冷凍食品 |                                                               |                                                              |
| 化学工業・石油・<br>石炭製品製造業   | 北興化学工業<br>ホクサン<br>日本農薬<br>エフビコ                                     | 長谷川香料<br>コーセー<br>リファインホールディングス<br>日油                                                    | コーセー                                                          |                                                              |
| その他の製造業               |                                                                    |                                                                                         | LAマイスター                                                       |                                                              |
| 電気・ガス・熱供給・<br>水道業     | 栗田工業<br>鹿島南共同発電                                                    |                                                                                         |                                                               |                                                              |
| 情報通信業                 | NTTデータ<br>ウイングアーク1st<br>三菱総研DCS<br>大塚商会<br>富士通                     | NECソリューションイノベータ<br>日本IBM<br>NTTデータアイ<br>エヌ・ティ・ティ・コムウェア                                  | 農中情報システム<br>交通新聞社<br>コーエーテクモホールディングス                          |                                                              |
| 運輸業・郵便業               | 商船三井<br>東日本旅客鉄道                                                    |                                                                                         |                                                               |                                                              |
| 不動産取引・賃貸・<br>管理業      |                                                                    |                                                                                         | イオンモール                                                        |                                                              |
| 学術・開発研究機関             | 新エネルギー・産業技術総合開発機構                                                  |                                                                                         |                                                               |                                                              |
| その他の専門・<br>技術サービス業    | レバレジーズ<br>アクセンチュア<br>ユーベック                                         | 自然環境研究センター<br>日本穀物検定協会                                                                  | 建設技術研究所<br>福山コンサルタント<br>復建エンジニアリング                            | オオバ<br>ノースサンド                                                |
| サービス業（他に分<br>類されないもの） | グリーン&ウォーター                                                         |                                                                                         |                                                               |                                                              |
| 国家公務                  | 農林水産省<br>製品評価技術基盤機構                                                |                                                                                         | 国土交通省<br>宮内庁                                                  | 林野庁                                                          |
| 地方公務                  | 横浜市役所<br>埼玉県警科学捜査研究所                                               |                                                                                         | 東京都庁<br>金沢市役所                                                 |                                                              |

## 石井 弘先生を偲んで

千葉大学名誉教授 石井 弘先生が、2024年4月にご逝去されました。享年95歳。謹んで哀悼の意を表します。

先生は1950年に本学の前身である千葉農業専門学校緑地土木科をご卒業後、実験実習指導員として母校のキャンパスに残られました。以来、1995年に定年退官されるまで、実に45年もの長きにわたり千葉大学園芸学部的发展にその一身を捧げられました。その経歴は、教務職員、助手、講師、助教授を経て1977年に教授に就任され、1989年には大学院自然科学研究科の環境科学専攻長という重責も担われるなど、本学の教育・研究の歴史そのものでした。その間、1972年には九州大学より「自然保全を中心とする景観解析に関する研究」で農学博士の学位を取得されており、この研究は先生の教育活動の根幹をなすものでした。

「造園は、自然と人間との調和を図る重要な仕事である」。先生が

## 平野 和彌先生を偲んで

千葉大学名誉教授・平野和彌（ひらの かずや）先生は、令和7年4月18日に93歳の生涯を閉じられました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

平野先生は昭和8年1月に東京で出生され、少年時代は太平洋戦争のために千葉で疎開生活を送られました。その時の食糧難の経験から農学系を志望されたそうです。昭和31年に千葉大学園芸学部を卒業されてから、日本園芸生産研究所（現 園芸植物育種研究所）に勤務された後、昭和33年に千葉大学助手（文部教官）として赴任され、昭和58年に助教授、昭和61年に教授に昇任されました。千葉大学では植物寄生性線虫の研究に取り組み、昭和58年に北海道大学から農学博士号を授与されました。その後も農業害虫としての線虫の研究を深められ、特に土壌伝染病における線虫と他病害との複合病に関して、多くの優れた研究業績を残されました。

一方、平野先生は学会関係でも広く貢献され、日本植物病理学会

風景計画学研究室 教授 古 谷 勝 則（造昭60）

講義で常々口にされていたこのお言葉は、私たち卒業生の心に深く刻まれています。先生の講義は、単なる知識の伝達に留まらず、学生一人ひとりの可能性を引き出し、未来への希望を与えてくれるものでした。研究室はいつも活気に満ち溢れ、学生たちは先生の温かくも熱心なご指導のもと、研究に励んでいました。

また、戸定会の学内副会長としても同窓会活動に尽力されました。特に1992年の学部創立80周年・柏農場開設記念事業では、祝賀会を主催する戸定会の中心として手腕を発揮され、成功に導かれました。当時の会報では、事業に寄せられた同窓諸氏からの多大な協力に対し、深く感謝の意を述べられています。

先生が大学に残してくださった偉大な業績と温かい教えは、これからも私たちの心の中で生き続けます。石井先生、本当にありがとうございました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

植物病理学研究室 教授 穴 戸 雅 宏（園昭58）

では、評議員、庶務幹事長、関東部会長等の役職を務められました。そして、平成5年に日本植物病理学会会賞を受賞され、平成20年には名誉会員に推挙されております。その他にも日本芝草学会では会長、編集委員長、評議員等を歴任されました。

さらに、国際協力についても熱心に活動され、日本学術振興会の海外研究調査を通して研究者間の相互交流を支援されました。また、国際協力事業団（現 国際協力機構）の筑波国際農業研修センターにて、25年間に82カ国、400名近い研修生に植物線虫害の講義と実地指導をなされました。

千葉大学在職中はもちろん、退官後も植物病理学研究室の同窓会には毎回出席され、学生達に楽しいお話をしてくださいました。ご高齢になられても、いつも快活で朗らかであられた先生のお姿が今も目に浮かびます。私も後輩、教え子達への長きに渡るご指導、ご高配に厚く御礼申し上げ、安らかなるご冥福を心よりお祈り申し上げます。

戸定会相談役 加 藤 一 郎（生管昭46）

る時田氏とのお付き合いには若干苦勞しました。時田氏は戸定会の主要会議にはすべて参加をして頂きましたが、晩年耳が遠くなり、私が内容を紙に書き筆談したことを思い出します。

時田氏に戸定会へのご寄付を依頼したところ、1,000万円を頂きこのご寄付金が「戸定学術振興基金」の創設に繋がりました。時田氏がご逝去された後、奥様が後を追うように亡くなられ、合同葬儀になりました。このことも時田氏の人生らしく心にのこりました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 時田 勉氏を偲んで

戸定会前埼玉県支部長、トキタ種苗株式会社会長の時田勉氏（園昭33）が令和6年11月8日に89歳でご逝去されました。

時田氏との最初の出会いは園芸学部創立100周年記念事業終了後、伊東正元会長から戸定会副会長に就任することを依頼されたところから始まりました。その後は毎年、トキタ種苗の大利根農場での交流会でお会いし、JAグループの園芸事業の課題と対応の講演もさせて頂きました。また時田氏は全日本瓢箪会の会長も務められ瓢箪の絵付なども学ぶこともできました。私はお酒が弱く酒豪であ

## 会 員 訃 報

前号発行後、ご逝去の報告をいただきました。

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。（敬称略：令和7年7月現在）

### <園芸学科>

園昭20 山内 一衛  
園昭22 村上 和六郎  
園昭24 星野 正和  
園昭29 太田 一  
園昭29 佐野 恵之  
園昭29 八木谷 麒一郎  
園昭31 川里 宏  
園昭31 平野 和彌  
園昭32 時田 勉  
園昭32 福岡 敏  
園昭33 加藤 勉  
園昭33 小佐野 吉泰  
園昭33 菅原 靖夫  
園昭33 和田 昭通  
園昭34 藤崎 修一郎  
園昭37 羽根井 良江  
園昭37 松田 一成  
園昭38 岩崎 桂三  
園昭38 小美野 禎司  
園昭39 小出 奠朝

園昭44

園昭44

園昭44

園昭44

園昭47

園昭51

園昭53

園昭55

園昭56

園昭57

園昭63

### <農芸化学科>

化昭19

化昭29

化昭30

化昭33

化昭33

化昭35

化昭37

化昭37

化昭37

太刀 啓五

中川 敏彦

西元 直行

森 孝

桜庭 照久

井上 優子

松本 功

齋藤 寧

大同 久明

清澤 正彦

園昭63 剥岩 栄作

藤吉 英治

坂田 敦

川野辺 章

化昭33 笠井 仁

化昭33 荅 幸枝

化昭35 辻 安弘

化昭37 今泉 弘吉

化昭37 中山 望

化昭37 深津 玖允

化昭39

化昭39

化昭40

化昭50

### <造園学科>

造昭25

造昭25

造昭25

造昭30

造昭32

造昭34

造昭35

造昭37

造昭39

造昭41

造昭43

造昭50

### <総合農学科>

総農昭29

総農昭31

総農昭31

小林 義明

近藤 寛

田中 弘之

杉 義人

石井 弘

児玉 武彦

蛭田 道夫

戸出 実

荒木 正雄

岸 宏士

秋元 隆

桜井 彬

高橋 一輔

湯本 勝

大日向 雅子

黒田 大三郎

有原 三郎

千田 幸彦

古屋 裕康

総農昭35

総農昭38

総農昭39

総農昭44

### <農業生産管理学科>

生管昭50

林 理

### <園芸経済学科>

園経昭57

原 敬二

### <環境緑地学科>

環緑昭54

矢部 宏

環緑平4

坂田 道子

### <生物生産科学科>

生物平16

松原 紀嘉

### <緑地・環境学科>

緑・環平8

関口 恵美

### <農業別科>

農別昭17

農別昭20

農別昭22

農別昭29

農別昭30

渡辺 幸夫

荒木 栄一

矢田部 正照

石井 修一

菅昭50

林 理

原 敬二

矢部 宏

坂田 道子

松原 紀嘉

関口 恵美

若林 庄一

森川 寿雄

川上 清一

伊藤 佑

関 武司

農別昭30

農別昭31

農別昭31

農別昭32

農別昭36

農別昭42

農別昭46

農別昭49

### <農業別科>

園別昭52

秋山 利光

### <大学院>

園專昭61

園專平4

造專平6

岡野 通明

Khin Hla Win

韓 圭希

高橋 幸雄

石田 栄男

田中 道広

石川 甚一郎

西原 政則

細谷 和之

鈴木 博

石島 修

秋山 利光

岡野 通明

Khin Hla Win

韓 圭希

# 卒業生だより

## 松本 祐太郎（園令2年・院前令4）

生物環境気象学研究室にて修士課程を修了後、農業土木コンサルタントに入社し、ほ場整備の設計などに従事してきました。業務を続ける中で、農業を仕事にしたいとの思いが強くなり、今年の9月から兵庫県農業法人に入社する形で就農することとなりました。大学や前職で学んだ農業気象・農業土木の知識を活かし、栽培の現場で貢献できればと思っています。



## 島尻 庸平（生物平20・院前平22）

木庭先生・菊池先生のご指導の下、遺伝育種学研を卒業し沖縄県に入庁しました。入庁後は主にマンゴーなどの熱帯果樹に関する試験研究や普及に携わってきました。学生時代はあまり勉強せず、就職してもっと勉強しておけばよかったと後悔しています。現在は農業大学校にて就農を目指す学生の指導を行っており、若い学生に振り回されますが、楽しい？毎日です。



## 中村 絵里（応生平30・院前令2）



食品添加物メーカーで、主にスナック菓子向けのシーズニング開発を担当しています。新卒入社後は大阪本社で4年半勤務し、2024年秋からは念願叶って東京支社へ異動。取引先との距離が近くなったので、営業活動にも積極的に同行しています。プライベートでは、美味しいものを求めて旅行や日々の外食を楽しみ、それが仕事にも役立っています。

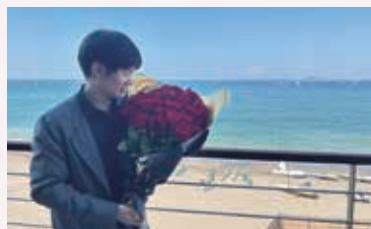
## 三田 郁也（応生平30・院前令2）

大学院時代に香りに関する研究を始め、香りに興味を持ち、卒業後は長谷川香料株式会社に入社しました。現在は天然物から香りや味を抽出する仕事に従事しています。抽出する天然物は様々で、主にフルーツやハーブスパイスを担当しています。休みの日には、美味しいものをたくさん食べたり、旅行したり、好きなアイドルのライブに行ったりと、楽しい日々を過ごしています。



## 原 大輝（緑環令3）

大学を卒業後、千葉県庁に入庁して5年目となります。現在は木更津の県税事務所で固定資産の評価業務を行っています。新築された建物の竣工図をみながら大規模な家屋の価格を決める業務にやりがいを感じています。大学



で学んだ知識を直接活かせるわけではないですが、いずれは千葉県の自然や農業に関わる業務を行いたいと思っています！

## 並木 駿（緑環平28）

私は緑地環境学科で近江先生にご指導いただき、現在は京都の植彌加藤造園株式会社で働いています。南禅寺をはじめとした寺院の庭園で、日々のお手入れや文化財修復工事、剪定や作庭の実務に幅広く携わっています。日本の伝統文化を守り、後世に伝えていくという、非常にやりがいのある仕事です。自身の成長も実感しながら、日本庭園文化の心と技を高められるように日々頑張っています。



## 俣野 菜（食資平30・院前令2）



丸山ゼミで修士課程を修了後、日本工営株式会社に入社し、ODA事業で途上国の農業・農村開発に携わっています。年間300日近くをスリランカやトルコなどの現場で過ごし、相手国政府や現地農家と深く関わる日々によりがいを感じています。

予期せぬ出来事ばかりですが、現地の農家の暮らしが少しでも良くなるよう、楽しみながら頑張りたいと思います。

## 二宮 広和（園経平15・院前生平17）

大学卒業後、セブン&アイホールディングス傘下のアイワイフーズ（現Peace Deli）で青果のマーチャンダイザーなどを10年間担当しました。地元に戻ってからはJA全農おいた直販課と家業（二宮農場）を8年間兼業し、現在は家業に専念しています。学生時代から先生方にご指導をいただき、現在も学会を通じて最新の課題について教えを受けながら学び続けています。



# 古在豊樹名誉教授が文化功労者顕彰を受章されました

戸定会相談役 加藤 一郎

古在豊樹名誉教授(1967年園芸学部卒業、2005年4月～2008年3月千葉大学長)が令和6年度文化功労者顕彰を受章されました。長年にわたり植物工場の研究開発や研修・教育・普及に取り組んだ顕著な功績が認められたものです。戸定会会員一同心よりお祝い申し上げます。

皆さま、古在先生の「幸せの種はきっと見つかる」(祥伝社)をお読みになされましたか。「求めない、恨まない、挫けない、怯まない、そして、急がない」は私の原点になりました。古在先生は千葉大学長になられて、大学は学部ごと、研究室ごとの縦割り

を壊して「柏の葉キャンパス」では横串を差して、医学部と園芸学部の先生が共に共通テーマで研究する場を創設しました。残念ながら古在先生が退任されると改革の炎が消えてしまいました。しかし、その思いを心に刻んだ者が大勢いたことを忘れないで頂きたいと思います。

令和7年4月26日の受章祝賀会に参加して、古在先生の国際的な幅広い人脈にはあらためて感銘を受けました。これからも私たちの目標として、年齢を乗り越えて研究活動を持続して頂きたいと思います。



## 戸定祭実行委員長からのごあいさつ

戸定祭実行委員長 中川 琉喜 (緑地環境学科3年)

今年も、千葉大学園芸学部の学園祭「戸定祭」を開催いたします。

2025年度は10月25日(土)・26日(日)の2日間、松戸キャンパスを会場に、様々な企画や展示を行います。

学生主体の実行委員会を中心に企画し、学生が作った花や野菜の販売、研究発表、野外ステージ発表など、園芸学部ならではの魅力が詰まった内容となっています。

そして、今年のテーマは「羽化」。学生一人ひとりが羽ばたくように成長し、新たなステップへ進む姿を表現しています。学生の歩みと成長を感じていただきたいです。

今年もより多くの方に楽しんでいただけるよう、クラウドファンディングを実施しています。いただいたご支援は、戸定祭の運営に必要な費用として、大切に活用させていただきます。あわせて、学生たちの学びと研究の成果が詰まった返礼品をご用意しております。また、戸定祭の継続的な発展のため、今後ご協賛やご寄付のお願いを差し上げる場合がございます。

その際にはぜひ温かいご支援を賜れますと幸いです。

皆さまの温かいご支援とご来場を、心よりお待ちしております。



## キャリアアドバイザー就任について

小林 達明

今年4月からキャリアアドバイザーに就任いたしました。学部長在任時には、アカデミック・リンク松戸募金に多大なご協力をいただき、感謝申し上げます。毎週火曜木曜にキャリアサポート室に出勤し、園芸学部・園芸学研究科を中心に全学学生の相談を受け付けています。千葉大学の学生は皆優秀で、幸い社会の求人状況もよいことから、大部分の学生が希望の進学・就職先に進んでいると考えています。

ただし心配事がないわけではありません。以前のような協定が守られなくなり、政府が採用広報活動開始としている卒業修了前年度3月の時点には、全国平均で理系学生の40%が内々定をとっている状況にあります。日常の学習に活かすのが本来趣旨のインターンシップで得られた情報が採用活動に流用できることになり、夏休みの申し込みに学

部3年次・大学院1年次の学生が春から躍起になる状況です。早すぎる活動は大学の存在意義が問われる異常事態と言えるでしょう。このような事態に至った一因は、就職サイト企業に丸投げされていた指導にあると考え、カリキュラムや学生活動と調和した適切な就活になるよう、就職ガイダンスの内容を共同検討するようにしました。また、園芸学部や園芸学研究科に適した企業情報が十分に学生に伝わりにくくなったことにも原因があると考えており、戸定会会員の皆様には、是非、求人・インターンシップ・企業情報を下記連絡先までお寄せいただきたいと思います。何卒よろしくお願いいたします。

zae8715@office.chiba-u.jp (園芸学部・園芸学研究科就職支援事務担当)

# ホームカミングデー 2024 報告

戸定会副会長 賀来 宏和 (造昭52)

学生が組織する実行委員会により企画運営される松戸キャンパスの大学祭「戸定祭」、2024年度は10月26日、27日に開催されました。これまでは西千葉キャンパスと同日程で11月初旬に開催されるのが恒例でしたが、両キャンパスでの大学祭をそれぞれ楽しみたいとする学生の熱意が大学当局を動かし、西千葉の11月に先立つ10月末の2日間に亘り開催されたものです。

初日の26日は、学生の就職支援を目的として、卒業後10年前後の4人の卒業生に話題提供をいただき、「自分のやりたい仕事・今の仕事・続ける仕事」をテーマに「ハイブリッドシンポジウム」を開催しました。詳細は32頁をご覧ください。2025年度は戸定会による寄付講義の一環として位置づけ、更にパワーアップして行われる予定です。

翌27日は、来場される市民の皆さんやホームカミングデーに來校される卒業生などを対象に、「戸定ガーデンカレッジ2024」を2つのプログラムにより行いました。

プログラム1は、昭和53年環境緑地学科卒業の中村俊彦氏より、「里山里海と生物多様性の景相生態：その保全再生の取り組みをふりかえる」と題してご講演いただきました。中村氏は、元千葉県立中央博物館副館長、現在は放送大学客員教授であり、環境緑地学科の第1期卒業生です。2024年度は環境緑地学科の創立50周年にあたり、前日の26日には、戸定ケ



丘ホールで「環境緑地学科創立50周年の集い」が開かれ、1期から8期までの草創の卒業生100余名が一堂に会し、本プログラムとの連携も意義深いものとなりました。

プログラム2は、平成13年園芸別科を卒業、現在「植物自由区」を主宰、踊る園芸家としても独自の才能を発揮、FMラジオ番組にも登場する片山陽介氏に、「踊る園芸家の花と野菜のよもやま話～育てる基礎から多品種の紹介～」と題してお話いただきました。

プログラム1では、同学科の卒業生を中心に、学内の諸先生方も参加され、講師の長年の研究実績に基づいた学術的な内容による充実したお話で、市民の緑化活動にも示唆を与えるご講演となりました。また、プログラム2では、大学祭に來場された市民の皆さんや、講師のファンクラブ会員とも思われる方々を含め、多方面で活躍する講師ならではの楽しい語り口で会場を賑わせました。

「ガーデンカレッジ」は、学外の來場者が多く訪れる園芸学部の大学祭にふさわしいプログラムとして、また、卒業生の活躍を発信する意味でも、今後とも継続充実を図っていききたいところです。



## ホームカミングデー 2025 開催について

今年も大学祭にあわせてホームカミングデーを開催します。昨年と同様、日程は10月最終の土日ですので、お間違いなく。

### 就職支援ハイブリッドシンポジウム

戸定会寄付講義「同窓生から学ぶキャリアデザイン」第7回、第8回の同時開催

日時：10月25日(土) 13時30分～16時

場所：園芸学部 100周年記念 戸定ヶ丘ホール

テーマ：「自分のやりたい仕事・今の仕事・続ける仕事」

大学生及び大学院生の就職支援を目的とし、卒業後のキャリアデザインを考える機会を提供します。4人の卒業生から話題提供をいただき、最後に学生と卒業生双方のコミュニケーションを図るため「茶話会」も行います。

### ガーデンカレッジ2025

日時：10月26日(日) 10時～15時

場所：園芸学部 100周年記念 戸定ヶ丘ホール

園芸学部卒業生による学生・卒業生・市民向けの講演会です。

#### ●プログラム1 10:30～12:00

演題1：「野菜の機能性と腸内環境改善による慢性炎症の予防  
— 発酵性食物繊維の活用 —」

講師：江頭 祐嘉合 (化昭61卒・化専昭63修／園芸学研究院教授)

演題2：「妊娠期栄養と次世代の肥満・メタボリックシンドローム」

講師：平井 静 (園芸学研究院准教授)

内容：人間にとって健康とは一番大切なものです。園芸学部で食品のご研究をされているお2人の先生に、研究の最先端に触れながら、世代を超えて健康寿命を伸ばす秘訣などをお伺いします。

#### ●プログラム2 13:30～15:00

演題：「植木のある暮らし～横浜国際園芸博覧会を契機に～」(仮題)

講師：生駒 順 (造平2卒／生駒植木㈱代表取締役)

内容：2027年に横浜で国際園芸博覧会が開催されます。地元横浜で植木の生産を長年手掛けられ、一般社団法人日本植木協会の副会長を務め、園芸博の準備にも忙しい生駒さんに、植木のある暮らしについてお話いただきます。園芸博への期待やご家庭などにおける植木の選び方や育て方などについてもお話をお伺いします。質問も大歓迎。

前座：賀来 宏和 (造園52卒・造専昭54修／園芸学部客員教授・戸定会副会長)

内容：生駒さんのお話の前座として、アジアで初めての国際園芸博覧会であった1990年の「花の万博」に携わり、2004年の「浜名湖花博」の総合プロデューサーで、横浜の国際園芸博も少々お手伝いしている立場として、わが国の園芸博の歴史に触れながら、横浜開催の意義などをお話します。

詳細は戸定会ホームページでご確認ください。戸定会ホームページ <https://dousoukai.site/tojokai/>

## 青リンゴが赤くなる不思議なメカニズム

園芸学科 准教授 齋藤 隆徳

リンゴの赤色やブドウの黒紫色といった果実の色はアントシアニン色素によりもたらされ、その細胞内での合成においてMYBとよばれる遺伝子の重要性が広く知られています。特にリンゴは、MdMYB1-1遺伝子を両親のいずれかから受け継ぐことで赤リンゴになりますが、MdMYB1-2やMdMYB1-3といった異なる種類のMYB遺伝子しか持たない場合は青リンゴになります。しかし「王林」のような一部の青リンゴ品種は、果実に強い光が当たったときなどに、部分的に赤味を帯びることがあります。また「陸奥」とよばれる青リンゴ品種では、紙製の果実袋を幼果にかけて日光を当てずに栽培し、収穫期の直前に果実袋を外して日光に当てると鮮やかに色づくことが古くから知られていました。しかし遺伝的に青リンゴとされる品種が赤くなるメカニズムについては未解明でした。

この謎に迫るために当研究グループでは、『ゲノムDNAのメチル化』に注目しました。ゲノムDNAに含まれるシトシンがメチル化という化学変換を受けると、遺伝子情報がうまく読み取れなくなることがヒトを含むあらゆる生物において知られています。そこでMdMYB1-2やMdMYB1-3のゲノムDNAのメチル化を「陸奥」で調べたところ、果実袋で100日ほど光をさえぎるとゲノムDNAのメチル化が低下することが分かりました。すなわち普段は眠った状態にあるMdMYB1-2やMdMYB1-3のメチル化がなくなること、その遺伝子情報を

読み取れるようになり、アントシアニンが合成されるようになるのです。

近年、全国のリンゴ生産現場の3割において、温暖化による高温が原因と考えられる着色不良・着色遅延が報告されています。そのため本成果は、眠った遺伝子の活用というこれまでにないアプローチによる新品种の開発へ発展することが期待されます。

「陸奥」は遺伝的に本来は青りんご（写真中央）ですが、幼果のときに果実袋をつけて栽培するといったん白くなり（写真左）、収穫の前に太陽光を当てることで赤くなります（写真右）



## 「RNAの加工（プロセッシング）の仕組みを明らかにし、遺伝情報を正しく読み解く」

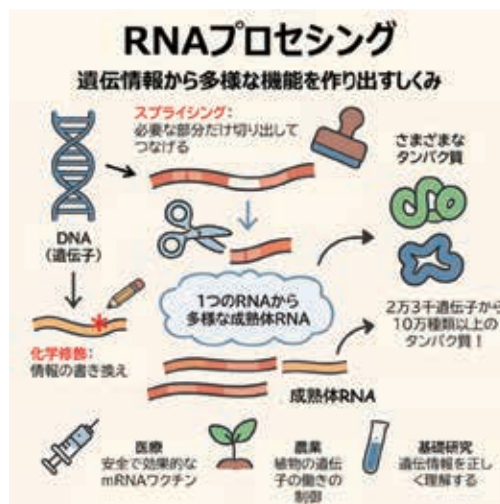
応用生命化学科 講師 相馬 亜希子

近年、RNAという分子を利用した技術が急速に発展し、さまざまな分野で活用されています。たとえば、遺伝子の働きを抑える「RNA干渉（RNAi）」、狙った遺伝子を編集できる「ゲノム編集」、そして新型コロナウイルスの感染予防にも使われた「mRNAワクチン」などが挙げられます。

RNAはDNAと同じ「核酸」と呼ばれる物質で、DNAから写し取られた遺伝情報をもとに、細胞をかたちづくり動かすためのタンパク質の設計図として働きます。しかし、RNAは合成されたばかりの状態そのままでは使えず、細胞内で「プロセッシング」と呼ばれる様々な加工を受ける必要があります（図参照）。この加工を経てようやく機能的な「成熟RNA」になります。たとえばヒトは約2万3千の遺伝子を持ちますが、ヒト細胞には10万種類を超えるタンパク質があるとされます。これは、1つの遺伝子から最大1万種の成熟RNAが作られ、それぞれ異なるタンパク質を合成できるためです。つまり、RNAのプロセッシングによって、限られた数の遺伝子から多様な働きが生み出されているのです。こうした仕組みは、遺伝情報を正しく理解し、利用する上でとても重要です。mRNAワクチンには化学修飾と呼ばれるRNAプロセッシングが人為的に施されており、それが副反応の抑制や効果的な免疫の働きにつながっています。

RNAプロセッシングの研究は世界中で進められていますが、その反応メカニズムには不明な点も多く、また、未知のプロ

セッシングも存在します。私たちの研究グループは新しいプロセッシングの発見とそのメカニズムや生理機能の解明を目指して研究に取り組んでいます。昨年は国内外の研究チームとの共同プロジェクトに参画して植物や病原菌に共通する新しいRNAプロセッシングを発見し、その成果は国際的な科学誌「Nature Chemical Biology」に掲載されました。こうした研究は、生命の仕組みの理解を深めるだけでなく、将来的には医療や農業への応用も期待されます。



## 「今回で3回目となるシンポで、卒業生から学生生活や就職活動、仕事のやりがいを語ってもらいました!」

戸定会会長 齋藤 京子 (園昭51)

10月26日(土)合同講義室に於いてホームカミングデー 2024 シンポジウムを開催しました。話題提供の方々は以下のとおりです。

田村 亮さん 食経平31 千葉県庁

板谷かえでさん 応生平31 / 院園前令3

(株)コーセー

安達 涼介さん 緑環平30 / 院園前令2

(株)ネクスコ東日本エンジニアリング

斎藤宏二郎さん 園芸平26 / 院園前平28

(株)建設技術研究所

皆さんお忙しい中、準備して熱く語ってくれました!その一端を紹介します。

自分が学びたいこと、やりたいことに注力する。自分がやり

たい仕事をきちんと確認・分析すること。インターンシップに参加すると入社後のミスマッチがない。専門性がないからと考えず、入社後に何でも吸収するという前向きな姿勢が大事。卒業した先輩へのOB訪問是非した方が良い。学生の時の人脈が大事。『生き物が好き』という自分の興味と関心を大事にする。仕事と家庭、自分のプライベートの両立を目指す。自分はなぜここでこの仕事をしているのか。常に自問自答(人生は一度きり)



## 戸定会へのご寄付のお願い

戸定会の重要な活動資源として一口1,000円からご寄付金をお願いいたします。ご寄付は同封の郵便振込用紙をご利用ください。

次年度の会報に、寄付者名簿を掲載させていただきます。

なお、20,000円以上のご寄付をいただいた方には、お礼の品を贈呈します。

①～③からお選びください。

1



**ジャム、はちみつセット**  
環境健康フィールド科学センターで収穫された果実のジャムと千葉大産純粋はちみつのセット

2



**リンゴ**  
環境健康フィールド科学センター沼田農場産のリンゴ ふじ (12月中旬以降発送予定・数量限定のため11月末締め切り)

3



**お酒**

守屋千葉大学名誉教授のご実家守屋酒造の純米大吟醸と辛口純米酒のセット (オリジナルラベル)

## 学生支援のため、戸定学術振興基金（千葉大学基金）へのご寄付のお願い

園芸学部創立120周年（2029年）を見据えた安定的な学生支援を実現するため、園芸学部戸定学術振興基金の計画的積立を開始することが、令和7年6月14日の理事会総会で承認されました。

本基金の役割と必要性をご理解いただき、学生の学術研究活動支援のため、温かいご寄付をよろしくお願いいたします。(別紙案内チラシ参照)

## 編集後記

今号の特集で取り上げられた通り、温暖化は水稻に深刻な影響を及ぼし始めています。こうした課題に対応するための研究開発の重要性を、日々強く感じています。本会報が、温暖化と農業に関する研究の意義に、読者の皆様に関心を寄せる契機となれば幸いです。

(矢野 佑樹)

会報誌編集は例年5月中旬開始、7～8月入稿です。(大学構内で子育て開始の)カラスに注意の回覧で編集の季節を思い出し、北門からの坂道での汗にそろそろメ切と悟ります。今年も原稿が集まり、ほっと一息。

(相馬 亜希子)

今号の特集は温暖化と異常気象です。内容に関連しつつも過度にネガティブにならないよう配慮し、近年話題のコメに関連する

田んぼの写真を表紙に選びました。表紙の選択およびデザインは、骨が折れました。

(濱 侃)

「学生の声」では、園芸学部の好きなところに多くの学生が緑豊かなキャンパスをあげていました。現在、貴重な緑が管理費不足等により十分に管理が行き届いていない状況が見られます。今後、様々な形で卒業生の皆様のご協力を賜ればありがたいです。

(竹内 智子)

1月の会報編集会議で、地球温暖化・異常気象を今回の会報の特集記事にしようと話していた時には、今年の夏がこんなに暑くなるとは思っていませんでした。この会報が郵送される頃には暑さも収まり、ゆっくりと読んでいただけたらと思います。

(佐藤 菜穂子：園昭53)

表紙：台風で倒伏した登熟期のコシヒカリ (千葉県農林総合研究センター水稻温暖化対策研究室試験圃場にて濱侃先生が撮影)

編集兼発行者 千葉大学園芸学部戸定会

〒271-8510 千葉県松戸市松戸648番地 FAX・TEL 047-360-3662

印刷所 株式会社サルト

発行日 2025年10月6日

執務日：月・木・金 留守番電話にはお名前・連絡先のお電話番号をお願いします  
E-mail : tojoukai@k6.dion.ne.jp